

学校コード

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 学部の設置

注1

認可

注2

國學院大學 観光まちづくり学部

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人國學院大學

令和5年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名	たまプラーザ事務部 たまプラーザ事務課
職名・氏名	カチョフ ヒロセ ケンイチ 課長 広瀬 健一 カチョフ サトウ トモヒロ 課長 佐藤 友宏
電話番号	045-904-7700
(夜間)	045-904-7700
e-mail	soumu_t@kokugakuin.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

観光まちづくり学部

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等 . . . . .	3
2. 授業科目の概要 . . . . .	7
3. 施設・設備の整備状況、経費 . . . . .	15
4. 既設大学等の状況 . . . . .	16
5. 教員組織の状況 . . . . .	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等 . . . . .	30
7. その他全般的事項 . . . . .	31

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人國學院大學

## (2) 大学名

國學院大學

## (3) 調査対象大学等の位置

〒225-0003

神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22番地1

(〒150-8440)

(東京都渋谷区東四丁目10番28号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(サナギ ショウゾウ) 佐柳 正三 (平成31年4月8日)		
学長	(ハリモト マサユキ) 針本 正行 (平成31年4月1日)		
学部長	(ニシムラ ユキオ) 西村 幸夫 (令和4年4月1日)		
学科長等	(ウメカワ トモヤ) 梅川 智也 (令和4年4月1日)		副学部長

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)  
令和5年度に報告する内容 → (5)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 学士（観光まちづくり）	社会学・社会福祉学関係	4年	300人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	1,200人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	300人 (-) [5]	-	300人 (-) [5]	-	1.10倍	-	1.09倍	-	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	2,494 (-) [0]	-	2,083 (-) [2]	-					
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	2,453 (-) [0]	-	2,032 (-) [1]	-					
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	789 (-) [0]	-	785 (-) [1]	-					
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	301 (-) [0]	-	360 (-) [1]	-					
入学定員超過率 B/A									1.00		1.20						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
- ・ なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。



(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	301 0	- (-)	361 (1)	- (-)	令和5年度1年次在学者数には、令和4年度入学者で原級留置した学生1名、令和4年度末に退学後、令和5年度に再入学した学生1名含む。
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] (-)	[ ] (-)	[ ] 0	[ ] (-)	
3年次			/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] (-)	[ ] (-)	[ ] (-)	[ ] (-)	
4年次	/				[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] (-)	[ ] (-)	[ ] (-)	[ ] (-)	[ ] (-)	[ ] (-)	
計			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	301 ( 0 )	[ ] ( 0 )	656 ( 1 )	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみ実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。**また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は「」書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	-	-	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	-	-	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	-	-	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	301 人	4 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	4 人	0 人	他大学入学(2名)、一身上の都合(2名)
令和5年度	656 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合計		4 人		4 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{301} = \boxed{1.32} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{656} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<観光まちづくり学部 観光まちづくり学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	神道と文化	1 前	2								2	
	神道と文化 國學院の学び(國學院大學の歴史と未来)	1-2 前	2	2							1	
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1-2 後	2	2							1	
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1-2 後	2	2							1	
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1-2 後	2	2							1	
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1-2 後	2	2							1	
	Japan Studies	2-3 前	2	2							1	
	小計(7科目)	-	2	12	0	0	0	0	0	0	0	7
	言語スキル科目	基礎日本語	1-2 後	2	2							1
		英語 I	1 前	2	2							5
		英語 II	1 後	2	2							5
		英語 III	2 前	2	2							5
		英語 IV	2 後	2	2							5
		ドイツ語 I	1 前	2	2							2
		ドイツ語 II	1 後	2	2							2
フランス語 I		1 前	2	2							2	
フランス語 II		1 後	2	2							2	
中国語 I		1 前	2	2							3	
中国語 II		1 後	2	2							3	
コリア語 I		1 前	2	2							1	
コリア語 II		1 後	2	2							1	
スペイン語 I		1 前	2	2							1	
スペイン語 II		1 後	2	2							1	
小計(15科目)	-	8	22	0	0	0	0	0	0	0	20	
STEM系科目	コンピュータと情報 I	1-2 前・後	2	2							2	
	コンピュータと情報 II	1-2 後	2	2							1	
	情報科学入門	1-2 前	2	2							1	
	地球環境と人間	1-2 後	2	2							1	
	宇宙物理学入門	1-2 前	2	2							1	
科学的思考法	1-2 後	2	2							1		
小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	4	
シブエンシブ科目	法学(日本国憲法)	1-2 前	2	2							1	
	法と社会参加(企業での活動と法)	1-2 後	2	2							1	
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1-2 後	2	2							1	
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1-2 前	2	2							1	
	小計(4科目)	-	0	8	0	0	0	0	0	0	0	4
専門授業科目	比較文化論 I	1-2 後	2	2							1	
	日本の経済	1-2 前	2	2							1	
	経済理論入門	1-2 後	2	2							1	
	経済経営数学入門	1-2 前	2	2							1	
	経済学史入門	1-2 後	2	2							1	
小計(5科目)	-	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3	
スポーツ実技科目	スポーツ実技A	1-2 前	1	1							2	
	スポーツ実技B	1-2 後	1	1							2	
	スポーツ科学論	1-2 後	2	2							1	
	小計(3科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5
	専門教育科目	社会学概論	1 前	2			2		1	1		1
まちづくりと観光		1 前	2			1	1		1		1	
小計(2科目)		-	4	0	0	1	3	0	1	2	0	
社会調査法入門		1 前	2			1			1		1	
統計分析の基礎		1 後	2			1					1	
プログラミングと数学基礎		1 後	2			1					1	
パブリックデザイン(地域と公共空間)		2-3 前	2			1					1	
プロダクトデザイン(地域と杉)		2-3 後	2			1					1	
データサイエンス		2-3 後	2			1					1	
質的調査法		2-3 後	2			2					1	
多変量解析		3 前	2			2					1	
地理空間情報分析		3 前	2			1					1	
小計(9科目)		-	2	16	0	2	1	2	0	1	2	
演習科目		導入ゼミナール	1 前	2			13	6	1			
		観光まちづくり演習 I (調査手法)	2 前	2			1	3	2		5	1
	観光まちづくり演習 II (地域分析)	2 後	4			15	8	3	1	5		
	観光まちづくり演習 III (構想・提案)	3 前	4			14	8	3	1	5		
	専門ゼミナール	3 通	2			16	9	3	1			
	卒業研究	4 通	4			16	9	3	1			
	基礎ゼミナールA	1 後	2			8	8	1	1		3	
	基礎ゼミナールB	2 前	2			11	3	3			3	
	小計(8科目)	-	18	4	0	17	9	3	1	5	1	
	展開科目	文化社会学	1 後	2						1		
		コミュニケーション論	1 後	2			1					
		地域と環境の社会学	2 前	2			1					
		グローバル化と社会学	2 前	2			1					

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	神道と文化	1 前	2								2	
	神道と文化 國學院の学び(國學院大學の歴史と未来)	1-2 前	2	2							1	
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1-2 後	2	2							1	
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1-2 後	2	2							1	
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1-2 後	2	2							1	
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1-2 後	2	2							1	
	Japan Studies	2-3 前	2	2							1	
	小計(7科目)	-	2	12	0	0	0	0	0	0	0	7
	言語スキル科目	アカデミック・リテラシー I	1-2 後	2	2							1
		英語 I	1 前	2	2							5
		英語 II	1 後	2	2							5
		英語 III	2 前	2	2							5
		英語 IV	2 後	2	2							5
		ドイツ語 I	1 前	2	2							2
		ドイツ語 II	1 後	2	2							2
フランス語 I		1 前	2	2							2	
フランス語 II		1 後	2	2							2	
中国語 I		1 前	2	2							3	
中国語 II		1 後	2	2							3	
コリア語 I		1 前	2	2							2	
コリア語 II		1 後	2	2							2	
スペイン語 I		1 前	2	2							1	
スペイン語 II		1 後	2	2							1	
小計(15科目)	-	8	22	0	0	0	0	0	0	0	21	
STEM系科目	コンピュータと情報 I	1-2 前・後	2	2							2	
	コンピュータと情報 II	1-2 後	2	2							1	
	情報科学入門	1-2 前	2	2							1	
	地球環境と人間	1-2 後	2	2							1	
	宇宙物理学入門	1-2 前	2	2							1	
科学的思考法	1-2 後	2	2							1		
小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	4	
シブエンシブ科目	法学(日本国憲法)	1-2 後	2	2							1	
	法と社会参加(企業での活動と法)	1-2 後	2	2							1	
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1-2 後	2	2							1	
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1-2 前	2	2							1	
	小計(4科目)	-	0	8	0	0	0	0	0	0	0	4
専門授業科目	比較文化論 I	2 後	2	2							1	
	日本の経済	1-2 前	2	2							1	
	経済理論入門	1-2 前	2	2							1	
	経済経営数学入門	1-2 前	2	2							1	
	経済学史入門	1-2 前	2	2							1	
小計(5科目)	-	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3	
スポーツ実技科目	スポーツ実技A	1-2 前	1	1							2	
	スポーツ実技B	1-2 後	1	1							2	
	スポーツ科学論	1-2 後	2	2							1	
	小計(3科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5
	専門教育科目	社会学概論	1 前	2			2		1	1		1
まちづくりと観光		1 前	2			1	1		1		1	
小計(2科目)		-	4	0	0	1	3	0	1	2	0	
社会調査法入門		1 前	2			1			1		1	
統計分析の基礎		1 後	2			1					1	
プログラミングと数学基礎		1 後	2			1					1	
パブリックデザイン(地域と公共空間)		2-3 前	2			1					1	
プロダクトデザイン(地域と杉)		2-3 後	2			1					1	
データサイエンス		2-3 後	2			1					1	
質的調査法		2-3 後	2			2					1	
多変量解析		3 前	2			2					1	
地理空間情報分析		3 前	2			1					1	
小計(9科目)		-	2	16	0	2	1	2	0	1	2	
演習科目		導入ゼミナール	1 前	2			13	6	1			
		観光まちづくり演習 I (調査手法)	2 前	2			1	3	2		6	1
	観光まちづくり演習 II (地域分析)	2 後	4			15	8	3	1	6		
	観光まちづくり演習 III (構想・提案)	3 前	4			14	8	3	1	6		
	専門ゼミナール	3 通	2			16	9	3	1			
	卒業研究	4 通	4			16	9	3	1			
	基礎ゼミナールA	1 後	2			8	8	1	1		3	
	基礎ゼミナールB	2 前	2			11	3	3			3	
	小計(8科目)	-	18	4	0	17	9	3	1	6	1	
	展開科目	文化社会学	1 後	2						1		
		コミュニケーション論	1 後	2			1					

専門教育科目	展開科目	基礎Ⅱ類 (資源)	地域資源論	1	後	2			3					1
		博物館概論	1	後	2			1						
		都市建築史	2	前	2			1						
		民俗学概論	2	前	2			1						
		保全生態学概論	2	前	2			2						
		基礎Ⅱ類 (政策・計画)	公共政策概論	1	後	2			1					1
		地方自治概論	2	前	2			1						
		地域デザイン論	2	前	2			1						
		国土・都市計画論	2	前	2			1						
		都市と地域の交通	2	前	2			1						
		基礎Ⅱ類 (観光)	観光学概論	1	後	2			1					1
		観光マーケティング	1	後	2			1						
		観光政策・計画論	2	前	2			2						
観光事業論	2	前	2			1								
発展Ⅰ類 (社会)	都市とメディアの社会学	2-3	後	2			1							
ジェンダーの社会学	2-3	後	2			2						1		
コミュニティ論	3	前	2			2						1		
NPOと市民社会	3	前	2			2						1		
観光社会学	3	前	2			1								
文化人類学	3	後	2			2						1		
発展Ⅱ類 (資源)	地域遺産論	2-3	後	2			1							
地域文化創造論	2-3	後	2			1								
風景計画論	2-3	後	2			2								
レクリエーション計画論	2-3	後	2			2						1		
文化行政・文化財行政概論	3	前	2			2								
自然/環境保護行政概論	3	前	2			2						1		
世界遺産論	3	後	2			2			1					
発展Ⅲ類 (政策・計画)	行財政概論	2-3	後	2			2						1	
まちづくり論	2-3	後	2			2			1					
農山漁村論	2-3	後	2			2						1		
都市保全論	3	前	2			2					1			
交通計画	3	前	2			2			1					
住民参加と合意形成	3-4	前	2			2			1					
地域減災論	3-4	前	2			2			1					
リノベーション論	3	後	2			2			1					
アートと地域振興	3	後	2			2			1		1			
発展Ⅳ類 (交流・産業)	観光行動論	2-3	後	2			2						1	
ホスピタリティ・マネジメント論	2-3	後	2			2							1	
地域の観光情報メディア	2-3	後	2			2			1					
旅行産業論	2-3	後	2			2			1					
宿泊産業論	2-3	後	2			2			1					
観光地経営論	3	前	2			2			2					
観光食マネジメント論	3-4	前	2			2			1					
世界の観光政策	3-4	前	2			2			1					
観光経済論	3	後	2			2			1					
田園回帰論	3	後	2			2			1					
小計(50科目)	-	-	6	94	0	15	9	1	1	3	10			
トビックス科目	経営学概論	1-2	後	2									1	
	地域ブランディング論	2-3	前	2									1	
	ソーシャル・イノベーション	2-3	後	2									1	
	運輸・観光実践論	2-3	後	2									1	
	不動産投資論	3-4	前	2									1	
	文化芸術政策論	3	後	2									1	
	観光危機管理論	3	後	2									1	
	観光まちづくりインターナショナル	3	通	2			1	2				1		
小計(8科目)	-	-	0	16	0	1	2	0	0	1	7			
関連科目	哲学・倫理学	1	前	2									1	
	地理学概論	1	後	2									1	
	地域と都市の経済	1-2	後	2									1	
	神道と環境Ⅰ	2	前	2									1	
	観光心理学	2	後	2									1	
	神社ネットワーク論Ⅰ	2-3	後	2									1	
小計(6科目)	-	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	6		
博物館学課程科目	生涯学習概論	2	前			2							1	
	博物館資料論	2	前			2			1					
	博物館教育論	2	後			2							1	
	博物館資料保存論	2	後			2							1	
	博物館展示論	3	前			2							1	
	博物館経営論	3	後			2							1	
	博物館情報・メディア論	3	前			2							1	
	博物館実習A	3	後			1			1					
	博物館実習B	4	前			2			1					
	小計(9科目)	-	-	0	0	17	0	1	0	0	0	0	6	
合計(132科目)	-	-	40	210	17	17	9	3	1	6	72			

専門教育科目	展開科目	基礎Ⅱ類 (資源)	地域資源論	1	後	2			3				1	
		博物館概論	1	後	2			2						
		都市建築史	2	前	2			1						
		民俗学概論	2	前	2			1						
		保全生態学概論	2	前	2			2						
		基礎Ⅱ類 (政策・計画)	公共政策概論	1	後	2			1					1
		地方自治概論	2	前	2			1						
		地域デザイン論	2	前	2			1						
		国土・都市計画論	2	前	2			1						
		都市と地域の交通	2	前	2			1						
		基礎Ⅱ類 (観光)	観光学概論	1	後	2			1					1
		観光マーケティング	1	後	2			1						
		観光政策・計画論	2	前	2			2						
観光事業論	2	前	2			1								
発展Ⅰ類 (社会)	都市とメディアの社会学	2-3	後	2			1							
ジェンダーの社会学	2-3	後	2			2						1		
コミュニティ論	3	前	2			2						1		
NPOと市民社会	3	前	2			2						1		
観光社会学	3	前	2			2			1					
文化人類学	3	後	2			2			1			1		
発展Ⅱ類 (資源)	地域遺産論	2-3	後	2			1							
地域文化創造論	2-3	後	2			1								
風景計画論	2-3	後	2			2			1					
レクリエーション計画論	2-3	後	2			2						1		
文化行政・文化財行政概論	3	前	2			2			2					
自然/環境保護行政概論	3	前	2			2			2			1		
世界遺産論	3	後	2			2			1					
発展Ⅲ類 (政策・計画)	行財政概論	2-3	後	2			2						1	
まちづくり論	2-3	後	2			2			1					
農山漁村論	2-3	後	2			2						1		
都市保全論	3	前	2			2					1			
交通計画	3	前	2			2			1					
住民参加と合意形成	3-4	前	2			2			1					
地域減災論	3-4	前	2			2			1					
リノベーション論	3	後	2			2			1					
アートと地域振興	3	後	2			2			1		1			
発展Ⅳ類 (交流・産業)	観光行動論	2-3	後	2			2						1	
ホスピタリティ・マネジメント論	2-3	後	2			2							1	
地域の観光情報メディア	2-3	後	2			2			1					
旅行産業論	2-3	後	2			2			1					
宿泊産業論	2-3	後	2			2			1					
観光地経営論	3	前	2			2			2					
観光食マネジメント論	3-4	前	2			2			1					
世界の観光政策	3-4	前	2			2			1					
観光経済論	3	後	2			2			1					
田園回帰論	3	後	2			2			1					
小計(50科目)	-	-	6	94	0	15	9	1	1	3	10			
トビックス科目	経営学概論	1-2	後	2									1	
	地域ブランディング論	2-3	前	2									1	
	ソーシャル・イノベーション	2-3	後	2									1	
	運輸・観光実践論	2-3	後	2									1	
	不動産投資論	3-4	前	2									1	
	文化芸術政策論	3	後	2									1	
	観光危機管理論	3	後	2									1	
	観光まちづくりインターナショナル	3	通	2			1	2				1		
小計(8科目)	-	-	0	16	0	1	2	0	0	1	7			
関連科目	哲学・倫理学	1	前	2									1	
	地理学概論	1	後	2									1	
	地域と都市の経済	1-2	後	2									1	
	神道と環境Ⅰ	2	前	2									1	
	観光心理学	2	後	2									1	
	神社ネットワーク論Ⅰ	2-3	後	2									1</	

卒業要件及び履修方法

○以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。

【共通教育科目】(26単位以上)

- ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。
- ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。
- ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。

【専門教育科目】(74単位以上)

- ・導入科目として、「社会学概論」「まちづくりと観光」を必修科目とする。
- ・メソッド科目においては、「社会調査法入門」を必修科目とし、「統計分析の基礎」「プログラミングと数学基礎」「パブリックデザイン(地域と公共空間)」「プロダクトデザイン(地域と杉)」「データサイエンス」「質的調査法」「多変量解析」「地理空間情報分析」の8科目16単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・演習科目においては、「導入ゼミナール」「観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目とし、「基礎ゼミナールA」と「基礎ゼミナールB」の2科目4単位から1科目2単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目基礎Ⅰ類(社会)においては、「文化社会学」「コミュニケーション論」「地域と環境の社会学」「グローバル化と社会学」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目基礎Ⅱ類(資源)においては、「地域資源論」を必修科目とし、「博物館概論」「都市建築史」「民俗学概論」「保全生態学概論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目基礎Ⅲ類(政策・計画)においては、「公共政策概論」を必修科目とし、「地方自治概論」「地域デザイン論」「国土・都市計画論」「都市と地域の交通」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目基礎Ⅳ類(交流・産業)においては、「観光学概論」を必修科目とし、「観光マーケティング」「観光政策・計画論」「観光事業論」の3科目6単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目全体においては、必修科目と選択必修科目を含めて、基礎から26単位以上、発展から12単位以上を修得することとし、合計44単位以上を修得することとする。

○履修科目の登録上限

各年次の履修科目の登録の上限は、1年次:42単位、2年次:42単位、3年次:42単位、4年次:48単位とする。

卒業要件及び履修方法

○以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。

【共通教育科目】(26単位以上)

- ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。
- ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。
- ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。
- ・「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とする。

【専門教育科目】(74単位以上)

- ・導入科目として、「社会学概論」「まちづくりと観光」を必修科目とする。
- ・メソッド科目においては、「社会調査法入門」を必修科目とし、「統計分析の基礎」「プログラミングと数学基礎」「パブリックデザイン(地域と公共空間)」「プロダクトデザイン(地域と杉)」「データサイエンス」「質的調査法」「多変量解析」「地理空間情報分析」の8科目16単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・演習科目においては、「導入ゼミナール」「観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目とし、「基礎ゼミナールA」と「基礎ゼミナールB」の2科目4単位から1科目2単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目基礎Ⅰ類(社会)においては、「文化社会学」「コミュニケーション論」「地域と環境の社会学」「グローバル化と社会学」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目基礎Ⅱ類(資源)においては、「地域資源論」を必修科目とし、「博物館概論」「都市建築史」「民俗学概論」「保全生態学概論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目基礎Ⅲ類(政策・計画)においては、「公共政策概論」を必修科目とし、「地方自治概論」「地域デザイン論」「国土・都市計画論」「都市と地域の交通」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目基礎Ⅳ類(交流・産業)においては、「観光学概論」を必修科目とし、「観光マーケティング」「観光政策・計画論」「観光事業論」の3科目6単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
- ・展開科目全体においては、必修科目と選択必修科目を含めて、基礎から26単位以上、発展から12単位以上を修得することとし、合計44単位以上を修得することとする。

○履修科目の登録上限

各年次の履修科目の登録の上限は、1年次:42単位、2年次:42単位、3年次:42単位、4年次:48単位とする。

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置						兼任・兼任		
			必修	選択	自修	助教	准教授	講師	助手	助手			
共通教育科目	神道と文化	1 前	2									2	
	國學院の学び(國學院大學の歴史と未来)	1・2 前	2	2								1	
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1・2 後	2	2								1	
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1・2 後	2	2								1	
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1・2 後	2	2								1	
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1・2 後	2	2								1	
	Japan Studies	2・3 前	2	2								1	
	小計(7科目)	-	2	12	0	0	0	0	0	0	0	7	
	基礎日本語	1・2 後	2	2								1	
	言語スキル科目	英語 I	1 前	2									5
		英語 II	1 後	2									5
		英語 III	2 前	2									5
		英語 IV	2 後	2									5
		ドイツ語 I	1 前	2	2								2
		ドイツ語 II	1 後	2	2								2
フランス語 I		1 前	2	2								2	
フランス語 II		1 後	2	2								2	
中国語 I		1 前	2	2								3	
中国語 II		1 後	2	2								3	
ロシア語 I	1 前	2	2								1		
ロシア語 II	1 後	2	2								1		
スペイン語 I	1 前	2	2								1		
スペイン語 II	1 後	2	2								1		
小計(15科目)	-	8	22	0	0	0	0	0	0	0	20		
STEM系科目	コンピュータと情報 I	1・2 前・後	2	2								2	
	コンピュータと情報 II	1・2 後	2	2								1	
	情報科学入門	1・2 前	2	2								1	
	地球環境と人間	1・2 後	2	2								1	
	宇宙物理学入門	1・2 前	2	2								1	
	科学的思考法	1・2 後	2	2								1	
小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	4		
専門教育科目	法学(日本国憲法)	1・2 前	2	2								1	
	法と社会参加(企業での活動と法)	1・2 後	2	2								1	
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1・2 後	2	2								1	
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1・2 前	2	2								1	
	小計(4科目)	-	0	8	0	0	0	0	0	0	0	4	
専門教育科目	比較文化論 I	2 後	2	2								1	
	日本の経済	1・2 前	2	2								1	
	経済理論入門	1・2 前	2	2								1	
	経済経営学入門	1・2 前	2	2								1	
	経済学史入門	1・2 前	2	2								1	
小計(5科目)	-	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3		
専門教育科目	スポーツ実技A	1・2 前	1	1								2	
	スポーツ実技B	1・2 後	1	1								2	
	スポーツ科学論	1・2 後	2	2								1	
小計(3科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5		
専門教育科目	社会学概論	1 前	2	2			2				1	1	
	まちづくりと観光	1 前	2	2			1				1	1	
	小計(2科目)	-	4	0	0	1	3	0	1	2	0		
	社会調査法入門	1 前	2	2			1	1			1		
	統計分析の基礎	1 後	2	2			1		1				
	プログラミングと数学基礎	1 後	2	2									
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2・3 前	2	2			1						
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2・3 後	2	2			1						
	データサイエンス	2・3 後	2	2					1				
	質的調査法	2・3 後	2	2								1	
多変量解析	3 前	2	2								1		
地理空間情報分析	3 前	2	2					1					
小計(9科目)	-	2	16	0	2	1	2	0	1	2			
演習科目	導入ゼミナール	1 前	13	6	1								
	観光まちづくり演習 I(調査手法)	2 前	2	1	3	2					5	1	
	観光まちづくり演習 II(地域分析)	2 後	4	15	8	3	1				5	1	
	観光まちづくり演習 III(構想・提案)	3 前	4	14	8	3	1				5	1	
	専門ゼミナール	3 通	2	16	9	3	1						
	卒業研究	4 通	4	16	9	3	1						
	基礎ゼミナールA	1 後	2	8	8	1	1				3		
	基礎ゼミナールB	2 前	2	11	3	3					3		
	小計(8科目)	-	18	4	0	17	9	3	1	5	1		
	展開科目	文化社会学	1 後	2	2								
コミュニケーション論		1 後	2	2			1						
地域と環境の社会学		2 前	2	2			1						
専門教育科目	グローバリゼーション論	2 前	2	2			1						
	地域資源論	1 後	2	2			3					1	
	博物館論	1 後	2	2			1						
	都市建築史	2 前	2	2			1						
	民俗学概論	2 前	2	2			1						
	保全生態学概論	2 前	2	2			2						
	公共政策概論	1 後	2	2			1					1	
	地方自治概論	2 前	2	2			1						
	地域デザイン論	2 前	2	2					1				
	国土・都市計画論	2 前	2	2			1						
都市と地域の交通	2 前	2	2					1					
観光学概論	観光学概論	1 後	2	2			1					1	
	観光マーケティング	1 後	2	2			1						
	観光政策・計画論	2 前	2	2			2						
観光事業論	2 前	2	2			1							
発展1類(社会)	都市とメディアの社会学	2・3 後	2	2			1						
	ジェンダーの社会学	2・3 後	2	2								1	
	コミュニティ論	3 前	2	2								1	
	NPOと市民社会	3 前	2	2								1	
	観光社会学	3 前	2	2			1					1	
文化人類学	3 後	2	2										
発展2類(資源)	地域遺産論	2・3 後	2	2			1						
	地域文化創造論	2・3 後	2	2			1						
	風景計画論	2・3 後	2	2			1						
	レクリエーション計画論	2・3 後	2	2								1	
	文化行政・文化財行政概論	3 前	2	2			2						
	自然/環境保護行政概論	3 前	2	2								1	
	世界遺産論	3 後	2	2					1				



(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
17 科目	106 科目	9 科目	132 科目	17 科目 [ 0 ]	106 科目 [ 0 ]	9 科目 [ 0 ]	132 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。



### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{132} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借入面積】 4,763.07㎡ 【借用期間】 令和2年3月1日～ 令和31年3月31日		
	校舎敷地	53,876㎡	0㎡	0㎡	53,876㎡			
	運動場用地	58,622㎡	0㎡	0㎡	58,622㎡			
	小 計	112,498㎡	0㎡	0㎡	112,498㎡			
	そ の 他	44,947㎡	0㎡	0㎡	44,947㎡			
合 計	157,445㎡	0㎡	0㎡	157,445㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借入面積】 4,763.07㎡ 【借用期間】 令和2年3月1日～ 令和31年3月31日			
	(116,772㎡)	( 0㎡)	( 0㎡)	(116,772㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	129室 130室	47室	20室	9室 (補助職員 9人)	1室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	観光まちづくり学部 観光まちづくり学科			30 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	「図書」「学術雑誌 (電子ジャーナル含 む)」「視聴覚資料」 については、学部単位 での特定不能なため、 大学全体の数  新規購入と計画的除籍 を実施したため(5)
	観光まちづくり 学部	1,643,842 [332,231] 1,627,460 -[332,279]- 1,628,973 -[331,691]-	10,726 [2,126] 10,822 -[2,137]- 10,828 -[2,148]-	58,319 [56,256] 77,052 -[74,607]- 35,087 -[33,883]-	455,319 455,744 457,205	30 20	0	
		(1,614,873 [332,397]) (1,601,127 -[332,404]-) (1,603,863 -[332,347]-)	(10,571 [2,115]) (10,511 -[2,116]-) (10,674 -[2,134]-)	(44,364 [42,719]) (51,063 -[49,397]-) (33,868 -[32,700]-)	(454,161) (454,087) (455,574)	(30) (20)	(0)	
		1,643,842 [332,231] 1,627,460 -[332,279]- 1,628,973 -[331,691]-	10,726 [2,126] 10,822 -[2,137]- 10,828 -[2,148]-	58,319 [56,256] 77,052 -[74,607]- 35,087 -[33,883]-	455,319 455,744 457,205	30 20	0	
		(1,614,873 [332,397]) (1,601,127 -[332,404]-) (1,603,863 -[332,347]-)	(10,571 [2,115]) (10,511 -[2,116]-) (10,674 -[2,134]-)	(44,364 [42,719]) (51,063 -[49,397]-) (33,868 -[32,700]-)	(454,161) (454,087) (455,574)	(30) (20)	(0)	
計	1,643,842 [332,231] 1,627,460 -[332,279]- 1,628,973 -[331,691]-	10,726 [2,126] 10,822 -[2,137]- 10,828 -[2,148]-	58,319 [56,256] 77,052 -[74,607]- 35,087 -[33,883]-	455,319 455,744 457,205	30 20	0		
	(1,614,873 [332,397]) (1,601,127 -[332,404]-) (1,603,863 -[332,347]-)	(10,571 [2,115]) (10,511 -[2,116]-) (10,674 -[2,134]-)	(44,364 [42,719]) (51,063 -[49,397]-) (33,868 -[32,700]-)	(454,161) (454,087) (455,574)	(30) (20)	(0)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	7,387㎡	842 864		2,150,000				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	6,211㎡	テ ニ ス コ ー ト 13 面 ト レ ー ニ ン グ ル ー ム 4 室						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設年度	開設年度	完成年度	開設前年度及び開設年 度は実績に基づいた数 値である。(5) 図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費(運搬用コスト 含む)を含む。
		255千円 350千円	350千円	図書購入費	15,041千円 15,000千円	14,975千円 22,590千円	30,000千円	
	0千円 650千円	650千円	設備購入費	297,408千円 346,379千円 150,000千円	7,752千円 5,000千円	5,000千円		
	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,300千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り 納付金		学生納付金以外の維持方法の概要						
		手数料収入、補助金収入、寄付金収入、資金運用収入を充当						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	國學院大學										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	5
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
文学部	4	685	-	2,750	-	1.04	-	1.17	1.13	-	昭和23	-						
日本文学科	4	250	-	1,010	学士(文学)	1.04	-	1.18	1.14	-	平成8	東京都渋谷区東四丁目10番28号	※令和4年度より入学定員減(255人⇒250人)。令和3年度届出済。					
中国文学科	4	60	-	240	学士(文学)	1.05	-	1.05	1.02	-	平成8	同上						
外国語文化学科	4	120	-	480	学士(文学)	1.03	-	1.15	1.10	-	平成8	同上						
史学科	4	190	-	760	学士(文学)	1.03	-	1.19	1.14	-	昭和23	同上						
哲学科	4	65	-	260	学士(文学)	1.06	-	1.22	1.16	-	昭和23	同上						
法学部	4	500	-	2,000	-	1.02	-	1.03	1.01	-	昭和38	-						
法律学科	4	500	-	2,000	学士(法学)	1.02	-	1.03	1.01	-	昭和38	東京都渋谷区東四丁目10番28号						
経済学部	4	510	-	2,040	-	1.02	-	1.10	1.07	-	昭和41	-						
経済学科	4	255	-	1,020	学士(経済学)	1.01	-	1.08	1.06	-	昭和41	東京都渋谷区東四丁目10番28号	※令和2年度より入学定員増(210人⇒255人)。令和元年度届出済。					
経済ICTワーキング学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	-	-	-	-	平成8	同上	※令和2年度より学生募集停止(150人⇒0人)。令和元年度届出済。					
経営学科	4	255	-	1,020	学士(経営学)	1.03	-	1.09	1.07	-	平成17	同上	※令和2年度より入学定員増(150人⇒255人)。令和元年度届出済。					
神道文化学部	4	180	-	720	-	1.09	-	1.16	1.12	-	平成14	-						
神道文化学科(昼間主)	4	120	-	480	学士(文学)	1.10	-	1.20	1.16	-	平成14	東京都渋谷区東四丁目10番28号						
神道文化学科(夜間主)	4	60	-	240	学士(文学)	1.06	-	1.09	1.04	-	平成14	同上						
人間開発学部	4	330	-	1,320	-	1.04	-	1.08	1.06	-	平成21	-						
初等教育学科	4	100	-	400	学士(教育学)	1.05	-	1.12	1.09	-	平成21	神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22番地1						
健康体育学科	4	130	-	520	学士(体育学)	1.05	-	1.11	1.08	-	平成21	同上						
子ども支援学科	4	100	-	400	学士(教育学)	1.02	-	1.01	1.00	-	平成25	同上						
観光まちづくり学部	4	300	-	600	-	1.10	-	1.09	-	-	令和4	-						
観光まちづくり学科	4	300	-	600	学士(観光まちづくり)	1.10	-	1.09	-	-	令和4	神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22番地1						
大学全体	4	2,505	-	9,430	-	-	-	-	-	-	-	-						

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。（様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。）
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。  
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
  - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
  - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
  - ・「平均入学定員超過率（控除後含む）」及び「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<観光まちづくり学部 観光まちづくり学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	
		<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	
担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名	
専	教授(学部長)	西村 幸夫 (69) (高) <令和4年4月> 工学博士	西村 幸夫 (70) (高) <令和4年4月> 工学博士	西村 幸夫 (71) (高) <令和4年4月> 工学博士	
	まちづくりと観光※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究	まちづくりと観光※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究	まちづくりと観光※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究		
専	教授	浅野 聡 (57) <令和4年4月> 博士(工学)	浅野 聡 (58) <令和4年4月> 博士(工学)	浅野 聡 (59) <令和4年4月> 博士(工学)	
	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市建築史 地域防災論	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市建築史 地域防災論	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市建築史 地域防災論		
専	教授	井門 隆夫 (60) <令和4年4月> 文学士	井門 隆夫 (60) <令和4年4月> 文学士	井門 隆夫 (61) <令和4年4月> 文学士	
	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光マーケティング 宿泊産業論	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光マーケティング 宿泊産業論	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光マーケティング 宿泊産業論		
専	教授	石本 東生 (60) <令和4年4月> Ph.D.(ギリシャ共和国)	石本 東生 (60) <令和4年4月> Ph.D.(ギリシャ共和国)	石本 東生 (61) <令和4年4月> Ph.D.(ギリシャ共和国)	
	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光社会学 世界の観光政策	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光社会学 世界の観光政策	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光社会学 世界の観光政策		
専	教授	梅川 智也 (64) <令和4年4月> 社会工学士	梅川 智也 (64) <令和4年4月> 社会工学士	梅川 智也 (65) <令和4年4月> 社会工学士	
	観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光政策・計画論※ 観光地経営論※	観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光政策・計画論※ 観光地経営論※	観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光政策・計画論※ 観光地経営論※		
専	教授	横(高橋)千里 (66) <令和4年4月> 政治学士	横(高橋)千里 (66) <令和4年4月> 政治学士	横(高橋)千里 (67) <令和4年4月> 政治学士	
	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地球の観光情報メディア 観光まちづくりインターンシップ	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地球の観光情報メディア 観光まちづくりインターンシップ	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地球の観光情報メディア 観光まちづくりインターンシップ		
専	教授	小林 裕和 (55) <令和4年4月> 理学士※	小林 裕和 (55) <令和4年4月> 理学士※	小林 裕和 (56) <令和4年4月> 理学士※	
	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光事業論 旅行産業論	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光事業論 旅行産業論	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光事業論 旅行産業論		
専	教授	小林 聡 (62) <令和4年4月> 文学修士	小林 聡 (62) <令和4年4月> 文学修士	小林 聡 (63) <令和4年4月> 文学修士	
	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 民俗学概論 地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論※	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 民俗学概論 地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論※	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 民俗学概論 地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論※		
専	教授	椎原 晶子 (58) <令和4年4月> 芸術学修士※	椎原 晶子 (59) <令和4年4月> 芸術学修士※	椎原 晶子 (59) <令和4年4月> 芸術学修士※	
	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB リノベーション論 アートと地域振興※	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB リノベーション論 アートと地域振興※	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB リノベーション論 アートと地域振興※		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	塩谷 英生 (57) <令和4年4月> 博士(観光学)
		統計分析の基礎 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光経済論
専	教授	下間 久美子 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域資源論※ 地域遺産論 文化行政・文化財行政概論※
専	教授	下村 彰男 (67)(高) <令和4年4月> 博士(農学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 保全生態学概論 ※ 風景計画論
専	教授	十代田 朗 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 国土・都市計画論 観光地経営論※
専	教授	南雲 勝志 (65) <令和4年4月> 芸術学士
		パブリックデザイン(地域と公共空間) プロダクトデザイン(地域と杉) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専	教授	堀木 美香 (52) <令和4年4月> 修士(農学生命科学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 保全生態学概論 ※ 観光学概論 観光政策・計画論※
専	教授	吉見 俊哉 (65) <令和5年4月> 社会学修士
		観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB グローバルゼンション論 都市とメディアの社会学
専	教授	米田 誠司 (58) <令和4年4月> 博士(公共政策学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 公共政策概論 観光食マネジメント論
専	准教授	石垣 悟 (47) <令和4年4月> 修士(文学)
		導入ゼミナール 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 博物館概論 博物館資料論 博物館実習A 博物館実習B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	塩谷 英生 (57) <令和4年4月> 博士(観光学)
		統計分析の基礎 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光経済論
専	教授	下間 久美子 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域資源論※ 地域遺産論 文化行政・文化財行政概論※
専	教授	下村 彰男 (67) <令和4年4月> 博士(農学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 保全生態学概論 ※ 風景計画論
専	教授	十代田 朗 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 国土・都市計画論 観光地経営論※
専	教授	南雲 勝志 (65) <令和4年4月> 芸術学士
		パブリックデザイン(地域と公共空間) プロダクトデザイン(地域と杉) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専	教授	堀木 美香 (52) <令和4年4月> 修士(農学生命科学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 保全生態学概論 ※ 観光学概論 観光政策・計画論※
専	教授	吉見 俊哉 (65) <令和5年4月> 社会学修士
		観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB グローバルゼンション論 都市とメディアの社会学
専	教授	米田 誠司 (58) <令和4年4月> 博士(公共政策学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 公共政策概論 観光食マネジメント論
専	准教授	石垣 悟 (47) <令和4年4月> 修士(文学)
		導入ゼミナール 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 博物館概論 博物館資料論 博物館実習A 博物館実習B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	塩谷 英生 (57) <令和4年4月> 博士(観光学)
		統計分析の基礎 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光経済論
専	教授	下間 久美子 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域資源論※ 地域遺産論 文化行政・文化財行政概論※
専	教授	下村 彰男 (68) <令和4年4月> 博士(農学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 保全生態学概論 ※ 風景計画論
専	教授	十代田 朗 (61) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 国土・都市計画論 観光地経営論※
専	教授	南雲 勝志 (66) <令和4年4月> 芸術学士
		パブリックデザイン(地域と公共空間) プロダクトデザイン(地域と杉) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専	教授	堀木 美香 (54) <令和4年4月> 修士(農学生命科学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 保全生態学概論 ※ 観光学概論 観光政策・計画論※
専	教授	吉見 俊哉 (66) <令和5年4月> 社会学修士
		観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB グローバルゼンション論 都市とメディアの社会学
専	教授	米田 誠司 (59) <令和4年4月> 博士(公共政策学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 公共政策概論 観光食マネジメント論
専	准教授	石垣 悟 (48) <令和4年4月> 修士(文学)
		導入ゼミナール 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 博物館概論 博物館資料論 博物館実習A 博物館実習B





専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	橋 惠直 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※
専	助教	潘 夢斐 (34) <令和4年4月> 修士(学際情報学)※
		社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学
兼任	教授	石井 研士 (67) <令和4年4月> 博士(宗教学)
		日本文化を知る(儒礼文化研究)
兼任	教授	岩瀬 由佳 (57) <令和4年4月> 博士(言語文化学)
		比較文化論Ⅰ
兼任	教授	植原 吉朗 (62) <令和4年4月> 博士(医学)
		日本文化を知る(武道の特性と国際化) スポーツ実技A
兼任	教授	尾近 裕幸 (58) <令和4年4月> 修士(経済学)
		経済理論入門 経済学史入門
兼任	教授	金杉 武司 (49) <令和4年4月> 博士(学術)
		哲学・倫理学
兼任	教授	近藤 良彦 (59) <令和4年4月> 理学博士
		コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
兼任	教授	坂本 正徳 (57) <令和4年4月> 博士(理学)
		コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任	教授	中馬 祥子 (56) <令和6年4月> 社会学修士
		NPOと市民社会
兼任	教授	中泉 真樹 (64) <令和4年4月> 経済学士
		日本の経済 経済経営数学入門
兼任	教授	中曾根(市川) 玲子 (65) <令和4年4月> 法学修士
		法と社会参加(企業での活動と法)
兼任	教授	長又 高夫 (57) <令和4年4月> 博士(法学)
		日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)
兼任	教授	林 貴一郎 (48) <令和4年4月> 博士(体育科学)
		スポーツ科学論
兼任	教授	福岡 英明 (62) <令和4年4月> 博士(法学)
		法学(日本国憲法)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	橋 惠直 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※
専	助教	潘 夢斐 (34) <令和4年4月> <b>博士(学際情報学)</b>
		社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学
兼任	教授	石井 研士 (67) <令和4年4月> 博士(宗教学)
		日本文化を知る(儒礼文化研究)
兼任	教授	岩瀬 由佳 (57) <b>&lt;令和6年4月&gt;</b> 博士(言語文化学)
		比較文化論Ⅰ
兼任	教授	植原 吉朗 (62) <令和4年4月> 博士(医学)
		日本文化を知る(武道の特性と国際化) スポーツ実技A
兼任	教授	尾近 裕幸 (58) <令和4年4月> 修士(経済学)
		経済理論入門 経済学史入門
兼任	教授	金杉 武司 (49) <令和4年4月> 博士(学術)
		哲学・倫理学
兼任	教授	近藤 良彦 (59) <令和4年4月> 理学博士
		コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
兼任	教授	坂本 正徳 (57) <令和4年4月> 博士(理学)
		コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任	教授	中馬 祥子 (56) <令和6年4月> 社会学修士
		NPOと市民社会
兼任	教授	中泉 真樹 (64) <令和4年4月> 経済学士
		日本の経済 経済経営数学入門
兼任	教授	長又 高夫 (57) <令和4年4月> 博士(法学)
		日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)
兼任	教授	林 貴一郎 (48) <令和4年4月> 博士(体育科学)
		スポーツ科学論
兼任	教授	福岡 英明 (62) <令和4年4月> 博士(法学)
		法学(日本国憲法)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	橋 惠直 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※
専	助教	潘 夢斐 (35) <令和4年4月> <b>博士(学際情報学)</b>
		社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学
兼任	教授	石井 研士 (68) <令和4年4月> 博士(宗教学)
		日本文化を知る(儒礼文化研究)
兼任	教授	岩瀬 由佳 (58) <b>&lt;令和6年4月&gt;</b> 博士(言語文化学)
		比較文化論Ⅰ
兼任	教授	植原 吉朗 (63) <令和4年4月> 博士(医学)
		日本文化を知る(武道の特性と国際化) スポーツ実技A
兼任	教授	尾近 裕幸 (58) <令和4年4月> 修士(経済学)
		経済理論入門 経済学史入門
兼任	教授	金杉 武司 (50) <令和4年4月> 博士(学術)
		哲学・倫理学
兼任	教授	近藤 良彦 (60) <令和4年4月> 理学博士
		コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
兼任	教授	坂本 正徳 (58) <令和4年4月> 博士(理学)
		コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任	教授	中馬 祥子 (55) <令和6年4月> 社会学修士
		NPOと市民社会
兼任	教授	中泉 真樹 (65) <令和4年4月> 経済学士
		日本の経済 経済経営数学入門
兼任	教授	長又 高夫 (58) <令和4年4月> 博士(法学)
		日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)
兼任	教授	林 貴一郎 (49) <令和4年4月> 博士(体育科学)
		スポーツ科学論
兼任	教授	福岡 英明 (62) <令和4年4月> 博士(法学)
		法学(日本国憲法)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	伊藤 英之 (39) <令和4年4月> 修士(教育学)	スポーツ実技B
兼任	准教授	福垣 浩 (45) <令和5年4月> 博士(政治学)	行財政概論
兼任	准教授	小濱 歩 (42) <令和4年4月> 博士(神道学)	国學院の学び(国學院大学の歴史と未来) 日本文化を知る(日本文化論と日本神話)
兼任	准教授	穴戸 節太郎 (52) <令和4年4月> 博士(文学)	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	千野 謙太郎 (44) <令和4年4月> 博士(学術)	スポーツ実技B
兼任	准教授	備前 嘉文 (43) <令和4年4月> 博士(スポーツ科学)	スポーツ実技A
兼任	講師	羅 芝賢 (37) <令和4年4月> 博士(法学)	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)
兼任	助教	大道(山中) 晴香 (36) <令和4年4月> 博士(宗教学)	神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ
兼任	助教	柏木 亨介 (45) <令和4年4月> 博士(文学)	神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任	講師	安倍 幸 (61) <令和6年4月> 博士(政治学)	文化人類学
兼任	講師	荒木 臣紀 (54) <令和5年4月> 修士(芸術学)	博物館資料保存論
兼任	講師	石原 久子 (57) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	市村 真実 (40) <令和5年4月> 修士(文学)※	博物館教育論
兼任	講師	大森 尚子 (57) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	岡田 誠 (48) <令和4年4月> 博士(文学)	基礎日本語
兼任	講師	岡部 友彦 (45) <令和5年4月> 修士(工学)※	ソーシャル・イノベーション

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	伊藤 英之 (39) <令和4年4月> 修士(教育学)	スポーツ実技B
兼任	教授	福垣 浩 (44) <令和5年4月> 博士(政治学)	行財政概論
兼任	准教授	小濱 歩 (42) <令和4年4月> 博士(神道学)	国學院の学び(国學院大学の歴史と未来) 日本文化を知る(日本文化論と日本神話)
兼任	准教授	穴戸 節太郎 (52) <令和4年4月> 博士(文学)	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	千野 謙太郎 (44) <令和4年4月> 博士(学術)	スポーツ実技B
兼任	准教授	備前 嘉文 (43) <令和4年4月> 博士(スポーツ科学)	スポーツ実技A
兼任	教授	羅 芝賢 (37) <令和4年4月> 博士(法学)	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)
兼任	助教	大道(山中) 晴香 (36) <令和4年4月> 博士(宗教学)	神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ
兼任	助教	柏木 亨介 (45) <令和4年4月> 博士(文学)	神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任	講師	安倍 幸 (59) <令和6年4月> 博士(政治学)	文化人類学
兼任	講師	荒木 臣紀 (53) <令和5年4月> 修士(芸術学)	博物館資料保存論
兼任	講師	石原 久子 (56) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	市村 真実 (39) <令和5年4月> 修士(文学)※	博物館教育論
兼任	講師	大森 尚子 (56) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	岡田 誠 (48) <令和4年4月> 博士(文学)	基礎日本語
兼任	講師	岡部 友彦 (44) <令和5年4月> 修士(工学)※	ソーシャル・イノベーション

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	伊藤 英之 (40) <令和4年4月> 修士(教育学)	スポーツ実技B
兼任	教授	福垣 浩 (45) <令和5年4月> 博士(政治学)	行財政概論
兼任	准教授	小濱 歩 (43) <令和4年4月> 博士(神道学)	国學院の学び(国學院大学の歴史と未来) 日本文化を知る(日本文化論と日本神話)
兼任	教授	穴戸 節太郎 (53) <令和4年4月> 博士(文学)	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	千野 謙太郎 (45) <令和4年4月> 博士(学術)	スポーツ実技B
兼任	准教授	備前 嘉文 (44) <令和4年4月> 博士(スポーツ科学)	スポーツ実技A
兼任	教授	羅 芝賢 (38) <令和4年4月> 博士(法学)	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)
兼任	助教	大道(山中) 晴香 (37) <令和4年4月> 博士(宗教学)	神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ
兼任	助教	柏木 亨介 (46) <令和4年4月> 博士(文学)	神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任	講師	安倍 幸 (60) <令和6年4月> 博士(政治学)	文化人類学
兼任	講師	荒木 臣紀 (54) <令和5年4月> 修士(芸術学)	博物館資料保存論
兼任	講師	石原 久子 (57) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	市村 真実 (40) <令和5年4月> 修士(文学)※	博物館教育論
兼任	講師	岩松 真紀 (59) <令和5年4月> 博士(農学)	生涯学習概論
兼任	講師	大森 尚子 (57) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	岡田 誠 (49) <令和4年4月> 博士(文学)	アカデミック・リテラシーⅠ
兼任	講師	岡部 友彦 (45) <令和5年4月> 修士(工学)※	ソーシャル・イノベーション

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	奥田 麻衣 (44) <令和4年4月> 博士(学術)	地球環境と人間
兼任	講師	小野 雅子 (60) <令和4年4月> 文学修士	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	片山 美由紀 (58) <令和5年4月> 人文学修士※	観光心理学
兼任	講師	角屋 明彦 (65) <令和4年4月> 学術修士※	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	上綱(菅野)久美子 (58) <令和5年4月> 芸術学修士	観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)
兼任	講師	栢川 純子 (58) <令和4年4月> 文学修士	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)
兼任	講師	木下 令子 (66) <令和4年4月> 文学士	スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ
兼任	講師	後藤 知美 (39) <令和5年4月> 博士(文学)	博物館展示論
兼任	講師	後藤 靖子 (65) <令和5年4月> 法学士	運輸・観光実践論
兼任	講師	小堀(佐々木)貴子 (35) <令和5年4月> 博士(農学)	レクリエーション計画論
兼任	講師	齋藤 弘崇 (41) <令和4年4月> 修士(文学)※	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千明 (64) <令和4年4月> 文学修士	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	佐野 敦子 (51) <令和5年4月> 博士(社会デザイン学)	ジェンダーの社会学
兼任	講師	首藤(吉中)理彩子 (48) <令和4年4月> 修士(英米言語学)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	John Pak (65) <令和4年4月> Master of Arts(米國)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	杉本 勇運 (35) <令和4年4月> 博士(観光科学)	地理学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	奥田 麻衣 (44) <令和4年4月> 博士(学術)	地球環境と人間
兼任	講師	小野 雅子 (60) <令和4年4月> 文学修士	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	片山 美由紀 (57) <令和5年4月> 人文学修士※	観光心理学
兼任	講師	角屋 明彦 (65) <令和4年4月> 学術修士※	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	上綱(菅野)久美子 (57) <令和5年4月> 芸術学修士	観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)
兼任	講師	栢川 純子 (58) <令和4年4月> 文学修士	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)
兼任	講師	木下 令子 (66) <令和4年4月> 文学士	スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ
兼任	講師	後藤 知美 (37) <令和5年4月> 博士(文学)	博物館展示論
兼任	講師	後藤 靖子 (64) <令和5年4月> 法学士	運輸・観光実践論
兼任	講師	小堀(佐々木)貴子 (34) <令和5年4月> 博士(農学)	レクリエーション計画論
兼任	講師	齋藤 弘崇 (41) <令和4年4月> 修士(文学)※	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千明 (64) <令和4年4月> 文学修士	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	佐野 敦子 (50) <令和5年4月> 博士(社会デザイン学)	ジェンダーの社会学
兼任	講師	首藤(吉中)理彩子 (48) <令和4年4月> 修士(英米言語学)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	John Pak (65) <令和4年4月> Master of Arts(米國)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	杉本 勇運 (35) <令和4年4月> 博士(観光科学)	地理学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	岡本 吉徳 (61) <令和5年4月> 文学修士	漢語Ⅰ 漢語Ⅱ
兼任	講師	奥田 麻衣 (45) <令和4年4月> 博士(学術)	地球環境と人間
兼任	講師	片山 美由紀 (58) <令和5年4月> 人文学修士※	観光心理学
兼任	講師	角屋 明彦 (66) <令和4年4月> 学術修士※	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	上綱(菅野)久美子 (58) <令和5年4月> 芸術学修士	観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)
兼任	講師	栢川 純子 (58) <令和4年4月> 文学修士	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)
兼任	講師	木下 令子 (67) <令和4年4月> 文学士	スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ
兼任	講師	後藤 知美 (38) <令和5年4月> 博士(文学)	博物館展示論
兼任	講師	後藤 靖子 (65) <令和5年4月> 法学士	運輸・観光実践論
兼任	講師	小林 中宣 (27) <令和5年4月> 修士(法学)	法学(日本国憲法)
兼任	講師	小堀(佐々木)貴子 (35) <令和5年4月> 博士(農学)	レクリエーション計画論
兼任	講師	齋藤 弘崇 (42) <令和4年4月> 修士(文学)※	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千明 (65) <令和4年4月> 文学修士	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	佐野 敦子 (51) <令和5年4月> 博士(社会デザイン学)	ジェンダーの社会学
兼任	講師	首藤(吉中)理彩子 (49) <令和4年4月> 修士(英米言語学)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	John Pak (66) <令和4年4月> Master of Arts(米國)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	杉本 勇運 (36) <令和4年4月> 博士(観光科学)	地理学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	園崎 直也 (47) <令和5年4月> 博士(農学)
		農山漁村論
兼任	講師	鈴木 卓治 (54) <令和6年4月> 博士(学術)
		博物館情報・メディア論
兼任	講師	高久 健二 (54) <令和4年4月> 文学博士(韓国)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	講師	高橋 佳江 (62) <令和5年4月> 文学修士
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	高松 正人 (65) <令和6年4月> 教育学士
		観光危機管理論
兼任	講師	田中 ゆり (55) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	丹治 朋子 (53) <令和5年4月> 修士(社会学)※
		ホスピタリティ・マネジメント論
兼任	講師	丹野(江部) 春香 (36) <令和5年4月> 修士(教育学)
		生涯学習概論
兼任	講師	坪原 紳二 (59) <令和6年4月> 博士(工学) Ph.D.(オランダ)
		コミュニティ論
兼任	講師	津山 拓也 (59) <令和4年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	戸井 久 (53) <令和4年4月> 博士(中国学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	土手 昭伸 (49) <令和4年4月> 博士(理学)
		科学的思考法
兼任	講師	中村 大 (56) <令和6年4月> 修士(歴史学)
		多変量解析
兼任	講師	橋本 俊哉 (60) <令和5年4月> 博士(工学)
		観光行動論
兼任	講師	原 功 (47) <令和5年4月> 修士(言語学)※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	半田 昌之 (69) <令和6年4月> 法学士
		博物館経営論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	園崎 直也 (46) <令和5年4月> 博士(農学)
		農山漁村論
兼任	講師	鈴木 卓治 (54) <令和6年4月> 博士(学術)
		博物館情報・メディア論
兼任	講師	高久 健二 (54) <令和4年4月> 文学博士(韓国)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	講師	高橋 佳江 (61) <令和5年4月> 文学修士
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	高松 正人 (63) <令和6年4月> 教育学士
		観光危機管理論
兼任	講師	田中 ゆり (54) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	丹治 朋子 (52) <令和5年4月> 修士(社会学)※
		ホスピタリティ・マネジメント論
兼任	講師	丹野(江部) 春香 (35) <令和5年4月> 修士(教育学)
		生涯学習概論
兼任	講師	坪原 紳二 (57) <令和6年4月> 博士(工学) Ph.D.(オランダ)
		コミュニティ論
兼任	講師	津山 拓也 (59) <令和4年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	戸井 久 (53) <令和4年4月> 博士(中国学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	土手 昭伸 (49) <令和4年4月> 博士(理学)
		科学的思考法
兼任	講師	中村 大 (54) <令和6年4月> 修士(歴史学)
		多変量解析
兼任	講師	橋本 俊哉 (59) <令和5年4月> 博士(工学)
		観光行動論
兼任	講師	花田 弘介 (37) <令和4年4月> 法務博士(専門職) 法と社会参加(企業での活動と法)
		法と社会参加(企業での活動と法)
兼任	講師	原 功 (46) <令和5年4月> 修士(言語学)※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	半田 昌之 (67) <令和6年4月> 法学士
		博物館経営論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	園崎 直也 (57) <令和5年4月> 博士(農学)
		農山漁村論
兼任	講師	鈴木 卓治 (57) <令和6年4月> 博士(学術)
		博物館情報・メディア論
兼任	講師	高久 健二 (55) <令和4年4月> 文学博士(韓国)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	講師	高橋 佳江 (62) <令和5年4月> 文学修士
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	高松 正人 (64) <令和6年4月> 教育学士
		観光危機管理論
兼任	講師	田中 ゆり (55) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	丹治 朋子 (53) <令和4年4月> 修士(社会学)※
		ホスピタリティ・マネジメント論
兼任	講師	坪原 紳二 (58) <令和6年4月> 博士(工学) Ph.D.(オランダ)
		コミュニティ論
兼任	講師	津山 拓也 (60) <令和4年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	戸井 久 (54) <令和4年4月> 博士(中国学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	土手 昭伸 (50) <令和4年4月> 博士(理学)
		科学的思考法
兼任	講師	富所 明博 (51) <令和5年4月> 博士(文学) コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	講師	中村 大 (55) <令和6年4月> 修士(歴史学)
		多変量解析
兼任	講師	橋本 俊哉 (60) <令和5年4月> 博士(工学)
		観光行動論
兼任	講師	花田 弘介 (37) <令和4年4月> 法務博士(専門職) 法と社会参加(企業での活動と法)
		法と社会参加(企業での活動と法)
兼任	講師	原 功 (47) <令和5年4月> 修士(言語学)※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	半田 昌之 (68) <令和6年4月> 法学士
		博物館経営論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	深谷 信介 (59) <令和5年4月> 修士(工学)	兼任	講師	深谷 信介 (59) <令和5年4月> 修士(工学)	兼任	講師	深谷 信介 (59) <令和5年4月> 修士(工学)
		地域ブランディング論			地域ブランディング論			地域ブランディング論
兼任	講師	福井 一善 (34) <令和4年4月> 博士(理学)	兼任	講師	福井 一善 (34) <b>&lt;令和5年4月&gt;</b> 博士(理学)	兼任	講師	福井 一善 (34) <b>&lt;令和5年4月&gt;</b> 博士(理学)
		地域と都市の経済			地域と都市の経済			地域と都市の経済
兼任	講師	寶善 みどり (63) <令和4年4月> 文学修士	兼任	講師	寶善 みどり (63) <令和4年4月> 文学修士	兼任	講師	寶善 みどり (64) <令和4年4月> 文学修士
		英語 I 英語 II			英語 I 英語 II			英語 I 英語 II
兼任	講師	本間 由香利 (56) <令和4年4月> 修士(言語学)※	兼任	講師	本間 由香利 (56) <令和4年4月> 修士(言語学)※	兼任	講師	本間 由香利 (57) <令和4年4月> 修士(言語学)※
		中国語 I 中国語 II			中国語 I 中国語 II			中国語 I 中国語 II
兼任	講師	牧野 修也 (55) <令和5年4月> 博士(社会学)	兼任	講師	牧野 修也 (54) <令和5年4月> 博士(社会学)	兼任	講師	牧野 修也 (55) <令和5年4月> 博士(社会学)
		質的調査法			質的調査法			質的調査法
兼任	講師	増山 栄一 (66) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米国)	兼任	講師	増山 栄一 (67) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米国)	兼任	講師	増山 栄一 (67) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米国)
		英語 I 英語 II			英語 I 英語 II			英語 I 英語 II
兼任	講師	水野(坂垣) 由香里 (47) <令和4年4月> 博士(経営学)	兼任	講師	水野(坂垣) 由香里 (47) <令和4年4月> 博士(経営学)	兼任	講師	水野(坂垣) 由香里 (48) <令和4年4月> 博士(経営学)
		経営学概論			経営学概論			経営学概論
兼任	講師	吉本 光宏 (65) <令和6年4月> 工学修士	兼任	講師	吉本 光宏 (63) <令和6年4月> 工学修士	兼任	講師	吉本 光宏 (64) <令和6年4月> 工学修士
		文化芸術政策論			文化芸術政策論			文化芸術政策論
兼任	講師	リム・ベクチェン (51) <令和5年4月> 博士(学術)	兼任	講師	リム・ベクチェン (50) <令和5年4月> 博士(学術)	兼任	講師	リム・ベクチェン (51) <令和5年4月> 博士(学術)
		Japan Studies			Japan Studies			Japan Studies
兼任	講師	渡邊 綱男 (68) <令和6年4月> 博士(農学)	兼任	講師	渡邊 綱男 (66) <令和6年4月> 博士(農学)	兼任	講師	渡邊 綱男 (67) <令和6年4月> 博士(農学)
		自然/環境保護行政概論			自然/環境保護行政概論			自然/環境保護行政概論
兼任	講師	和良地 克茂 (68) <令和6年4月> 修士(工学)	兼任	講師	和良地 克茂 (66) <令和6年4月> 修士(工学)	兼任	講師	和良地 克茂 (67) <令和6年4月> 修士(工学)
		不動産投資論			不動産投資論			不動産投資論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 各種の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。  
 ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を赤字で記入してください。  
 ・ その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**  
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の年齢**を記入してください。  
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(研)、兼任、兼任の順)に記入してください。  
 ・ 不変な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。  
 ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none"><li>専任の潘夢斐助教が、学位「博士(学際情報学)」を取得。 取得年月日：令和3年6月11日 授与機関名：東京大学大学院学際情報学府 学位記番号：博士学情第168号 論文名：Locating and Localizing the Art Networks: A Sociological Examination of the Roles of Place in Art Networks in Ueno, Tokyo in the Meiji Period (アートネットワークと場所 一明治期東京上野におけるアートネットワークに関する社会学的研究)</li><li>兼任の稲垣浩の職位について、令和4年度に准教授から教授に昇格。</li><li>兼任の羅芝賢の職位について、令和4年度に専任講師から准教授に昇格。</li><li>兼任の中曽根玲子教授が派遣研究期間(国内)にあたるため、「法と社会参加(企業での活動と法)」については、花田弘介兼任講師に担当教員変更。</li><li>授業科目「比較文化論Ⅰ」の開講年度の変更により、兼任の岩瀬由佳教授の就任年月を令和4年4月から令和5年4月に変更。</li><li>授業科目「地域と都市の経済」の開講年度の変更により、兼任の福井一喜講師の就任年月を令和4年4月から令和5年4月に変更。</li></ul>
---

【令和5年度】

<ul style="list-style-type: none"><li>兼任の宍戸節太郎の職位について、令和5年度に准教授から教授に昇格。</li><li>兼任の福岡英明教授が派遣研究期間(国内)にあたるため、「法学(日本国憲法)」については、小林宇宙兼任講師に担当教員変更。</li><li>小野雅子兼任講師の辞任により、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」については、岡本さだこ兼任講師に担当教員変更。</li><li>丹野(江部)春香兼任講師の就任辞退により、「生涯学習概論」については、岩松真紀兼任講師に担当教員変更。</li><li>岡田誠兼任講師の授業科目について、「基礎日本語」から「アカデミック・リテラシーⅠ」に科目名称変更。</li><li>授業科目「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」について、履修者増加による増コマのため、富所明秀兼任講師を追加。</li></ul>
--

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A/C教員審査)を受けてください。A/C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
  - A/C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
17	9
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。  
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
17	9	3	1	30	6	17	9	3	1	30	6
(16)	(9)	(3)	(1)	(29)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
17	9	3	1	30	6	17	9	3	1	30	6
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
70	0	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合は、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{6}{6} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{30} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。  
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。



(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時  (令和4年)	1.カリキュラム・ツリーにおいて、必修科目である「社会学概論」は展開科目の「基礎Ⅰ類(社会)」のみに関連するように記載されているが、本科目は他の科目区分とも関連することから、当該ツリーを学生に示す際は、科目間の対応関係を明確にした上で、誤解が生じないように分かりやすく示すことが望ましい。	【認可】 助言事項  1年次生に対しては、カリキュラムツリーそのものを配布しても理解が進まないと考え、「助言」の内容をふまえたカリキュラムツリーをもとに作成した資料(別紙1)を用いて4月6日に学部ガイダンス(履修ガイダンス)を実施し、カリキュラムの体系性と各科目群の狙いを詳細に説明した上で、体系的な履修を心がけるよう促した。(4)  令和5年度も新入生に対して上記のガイダンスを実施した。また、令和4年度に計画したとおり、2年次生向けのガイダンス資料(別紙2)を用いて、2年次生に対しても学部ガイダンス(履修ガイダンス)を実施して、カリキュラムの体系性について再認識する機会を設けた。(5)	履行済  次年度以降も新入生に対して同様のガイダンスを実施する。また、2年生以上の学生に対しては、別途履修ガイダンスを実施することで、観光まちづくり学部のカリキュラムに対する理解を深め、体系的な履修が行われることを担保する。(4)  次年度以降も、新入生と2年次生向けに、履修ガイダンスを実施して、観光まちづくり学部のカリキュラムの理解を深め、体系的な履修が行われることを担保する。(5)
認 可 時  (令和4年)	2.「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」について、学生60人程度に対して助手1名を配置する計画となっているが、配置される助手に過度な負担がかからないよう十分に配慮するとともに、必要に応じて追加で助手を配置することも含めて、適切な助手の配置計画に留意することが望ましい。	【認可】 助言事項  「観光まちづくり演習Ⅰ」は令和5年前期から開始されるため、右記の実施計画の通り、適切な助手の配置となるよう留意する。(4)  令和5年度は新たに3名の助手を採用し、当初計画のとおり、助手6名の配置が完了した。令和5年度前期開講の「観光まちづくり学部演習Ⅰ」には6名全員が携っており、授業運営のサポート役となる助手に過度な負担がかからないよう、演習の運営委員会を定期的に開催し、助手の役割と負担について確認・調整している。(5)	履行中  「観光まちづくり演習Ⅰ」が令和5年前期から開始されるため、適宜、助手の負担状況にも目を配り、必要に応じてスチューデント・アシスタント制度も利用するなどして、助手に過度な負担がかからないよう配慮する。(4)  令和5年度後期の「観光まちづくり演習Ⅱ」と、令和6年度前期の「観光まちづくり演習Ⅲ」の開講に向けて、今後も演習の運営委員会を定期的に開催しつつ、助手に過度な負担がかからないよう調整する。(5)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

**【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】**

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

**【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】**

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)(5)」と記載してください。

**【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <観光まちづくり学部 観光まちづくり学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 卒業要件単位数</p> <p>以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。</p> <p>【共通教育科目】（26単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。</li> <li>・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。</li> <li>・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。</li> </ul> <p>【専門教育科目】（74単位以上）</p> <p>※内容省略</p> <p>② 施設・設備</p> <p>a 学部長室（20.90㎡）</p>	<p>① 卒業要件単位数において、共通教育科目のSTEM系科目群（「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」）から1科目2単位以上を選択必修とすることを共通教育科目の単位修得条件に追加する。</p> <p>共通教育科目は、全学共通で人間力・社会人を育み学ぶために設けられた科目で、Science、Technology、Engineering及びMathematicsの頭文字を付したSTEM系科目群は、今後ますます技術革新が進むであろう社会にあつて、エビデンスに基づいて適切な情報を選択し、既成の概念を論理的かつ批判的に検証し、又は革新的な提案をするために、文系、理系を問わずに必要な知識と能力を修得する科目群である。</p> <p>複数の学問分野の融合によって地域を理解し、地域の実情に即した課題解決型の教育を目指す観光まちづくり学部においては、複眼的にもものを見る力を養ううえでも、STEM系科目群は専門教育を補完し学修を深める重要な科目群となることから、単位修得条件に追加し変更する。</p> <p>変更後の卒業要件は以下のとおり。</p> <p>▼卒業要件</p> <p>以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。</p> <p>【共通教育科目】（26単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。</li> <li>・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。</li> <li>・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。</li> <li>・「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とする。</li> </ul> <p>【専門教育科目】（74単位以上）</p> <p>※内容省略</p> <p>② 観光まちづくり学部の管理運営機能を強化するために学部長室（20.90㎡）を増設した。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

## (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

### ① 実施体制

#### a 委員会の設置状況

観光まちづくり学部では、教員の資質の維持向上のため、以下3つの委員会を設置している。

#### 1. 観光まちづくり学部教務委員会・FD委員会

・観光まちづくり学部教務委員会・FD委員会は、学部教員11名から構成されている。なお、教務委員会・FD委員会は、「教員の資質の維持向上の方策」だけでなく、教務全般を取扱う委員会である。

#### 2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

・観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会は、正副学部長を含む学部教員と外部委員、および本学事務課員から構成されている。（別紙3「観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程」）

#### 3. 各種演習科目運営委員会

・観光まちづくり学部の演習科目「導入ゼミナール」「基礎ゼミナールA・B」「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の準備と実施のため、以下の通り、科目別の運営委員会が組織されている。

#### <演習運営委員会>

- ・導入ゼミナール運営委員会
- ・基礎ゼミナール運営委員会
- ・観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ運営委員会

#### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

各委員会の開催状況は以下の通り。

#### 1. 観光まちづくり学部FD委員会

・令和4年度、観光まちづくり学部FD委員会は観光まちづくり学部教務委員会と同時に開催され、計15回開催された（別紙4「令和4年度観光まちづくり学部教務委員会開催実績」）。

#### 2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

・令和4年度は、令和5年3月14日に第1回観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会を開催した（別紙5「第1回 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会 次第」）。なお、第1回の委員会を開催するにあたり、観光まちづくり学部の教員と事務課員のみで、議事や資料を検討する機会も設けられていた。

#### 3. 各種演習科目運営委員会

・導入ゼミナール「基礎ゼミナールA・B」「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の準備と実施のため、科目ごとの運営委員会が組織されている。

#### <演習運営委員会>

- ・導入ゼミナール運営委員会（教員4名）：月1回程度
- ・基礎ゼミナール運営委員会（教員4名）：月2回程度
- ・観光まちづくり演習Ⅰ運営委員会（参加教員7名）：計11回（令和4年9, 10, 11, 12月・令和5年1, 2, 3月。月1, 2回）
- ・観光まちづくり演習Ⅱ運営委員会（参加教員3名）：計4回（令和4年9, 11月・令和5年1, 3月）
- ・観光まちづくり演習運営委員会（参加教員8名）：計3回（令和4年4, 5, 6月）

c 委員会の審議事項等

各委員会の審議事項等は、以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD委員会
  - (1) 教員の教育能力向上のために行う研修・研究会等の計画と実施運営
  - (2) 授業方法の改善・向上に関する情報の収集と提供
  - (3) 教育施設・設備の改善に関する検討と提案
  - (4) シラバスの点検及び改善策の立案
  - (5) 教材の作成支援に関する検討と提案
  - (6) 授業・教育状況に関する学生および教員への定期的アンケートの実施
  - (7) 学生による授業評価の実施
  - (8) 授業改善学生会議の設置と運営助成
  - (9) 授業観察・検討会の企画および実施運営
  - (10) FD活動に関する成果の発信と公開
  - (11) FD活動に関する教育開発推進機構との連携
2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会
  - (1) 学部運営の点検・評価
  - (2) 学部運営の改善に関する提言
  - (3) 地域マネジメント研究センターの運営に関する助言
  - (4) 地域、並びに外部機関との連携推進に関する助言・提言  
(別紙3「観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程」)
3. 各種演習科目運営委員会
  - (1) 授業方法に関する検討と提案
  - (2) 教育施設・設備に関する検討と提案
  - (3) 教授法や教材等に関する検討と提案

② 実施状況

a 実施内容

令和4年度の実施内容は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD事業（観光まちづくり学部FD委員会主催）

令和4年度、観光まちづくり学部ではFD事業として、本学部の核となる「観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ」に関する教員の資質の維持向上のために「観光まちづくり演習」の開講に向けたスキルアップ事業を実施した。具体的には、下記4つの事業を実施した。（別紙6「令和4年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」事業報告書」）

<実施した事業>

  - ① 担当教員の相互理解を目的とした研究会
  - ② ツール研修会
  - ③ 地域理解研修会
  - ④ アンケート調査の実施：②の各研修会後
2. 第1回観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会（観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会主催）

前述の通り、令和4年度、観光まちづくり学部は第1回観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会を開催した。下記4点を議題とし、観光まちづくり学部、および令和4年度の学部の取組状況を説明し、外部委員との意見交換を行った。なお、各議題の説明にあたり、下記5点の資料を配布した。（別紙5「第1回 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会 次第」）

<議題>

  - (1) 本委員会の目的と観光まちづくり学部の目標と学びについて
  - (2) 地域マネジメント研究センター（CMI）の概要について
  - (3) 令和4年度入学者の概要と令和5年度の入学者見込みについて
  - (4) 令和5年度事業計画（案）について

<資料>

  - ・学部紹介冊子「学部ガイドブック」
  - ・機関誌『観光まちづくり 第2号』
  - ・「國學院大學観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程」（別紙3）
  - ・「令和4年度地域マネジメント研究センター（CMI）活動報告」（別紙7）
  - ・「令和5年度事業計画（案）」（別紙8）
3. 各種演習科目運営委員会  
前述の通り、科目ごとの運営委員会を開催し、授業方法、教育施設・設備、教授法や教材等に関する検討を重ねた。

## b 実施方法

令和4年度の実施方法は以下の通り。

### 1. 観光まちづくり学部FD事業（観光まちづくり学部FD委員会主催）

前述の通り、下記4つのFD事業を実施した。いずれも本学たまプラーザキャンパス若木21（本学部が拠点とする建物）において実施した。下記②③は、外部から講師を招聘して実施した。（別紙6「令和4年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」事業報告書」）

#### <実施した事業>

- ① 担当教員の相互理解を目的とした研究会
- ② ツール研修会
- ③ 地域理解研修会
- ④ アンケート調査の実施

### 2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

前述の通り、観光まちづくり学部の教員と事務課員が議事や資料を準備した上で、外部委員を招聘した第1回観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会を令和5年3月14日に本学たまプラーザキャンパス若木21において開催した。（別紙5「第1回 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会 次第」）

### 3. 各種演習科目運営委員会

前述の通り、本学たまプラーザキャンパス若木21で科目ごとの運営委員会を定期的に開催した。

## c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和4年度の開催状況は以下の通り。

### 1. 観光まちづくり学部FD事業

前述の通り、下記4つのFD事業を実施した。開催回数と次期、参加人数は、以下の通り。（別紙6「令和4年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」事業報告書」）

#### <実施した事業>

- ① 担当教員の相互理解を目的とした研究会：11回開催（令和4年4, 5, 6, 11, 12月・令和5年1, 2月／参加教員数32名）
- ② ツール研修会：2回開催（令和5年1月・令和5年2月／参加教員数32名）
- ③ 地域理解研修会：2回開催（令和4年7月・令和5年2月／参加教員数32名）
- ④ アンケート調査の実施：②～③の各研修会後

### 2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

前述の通り、第1回観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会を開催した。観光まちづくり学部の教員は、正副学部長を含む8名が参加した。（別紙5「第1回 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会 次第」）

### 3. 各種演習科目運営委員会

前述の通り、本学たまプラーザキャンパス若木21で科目ごとの運営委員会を定期的に開催した。

## d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

以上の実施結果は、観光まちづくり学部教員に共有されており、各教員が実施内容を踏まえて令和5年度の授業内容や授業運営に反映させている。

### ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

#### a 実施の有無及び実施時期

本学では、各学期末に授業評価アンケートを実施している。観光まちづくり学部の開講科目においても前期末の7月、後期末の1月に実施している。

#### b 教員や学生への公開状況、方法等

各授業のアンケート結果は、担当教員が学修支援システムK-SMAPY II上で閲覧可能である。また、アンケート結果に対する教員のリプライコメントは、学生がK-SMAPY II上で閲覧可能である。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙9「観光まちづくり学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」参照。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・令和5年5月17日 公表

###### b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し専任教職員に配付  
・大学ホームページ上に公開（令和5年5月17日）

##### ③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和4年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けた  
・令和11年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける（予定）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・ 無 ]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [ ]

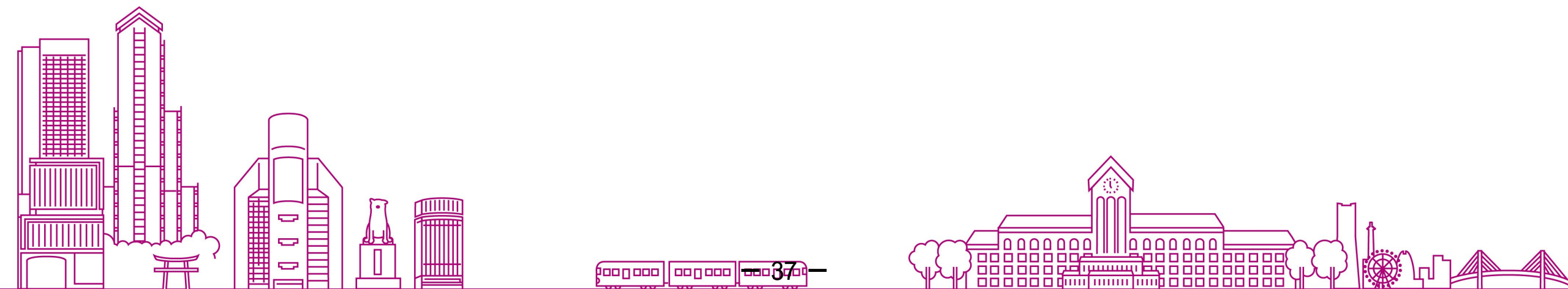
※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。



# 観光まちづくり学部 専門教育科目

履修ガイダンス



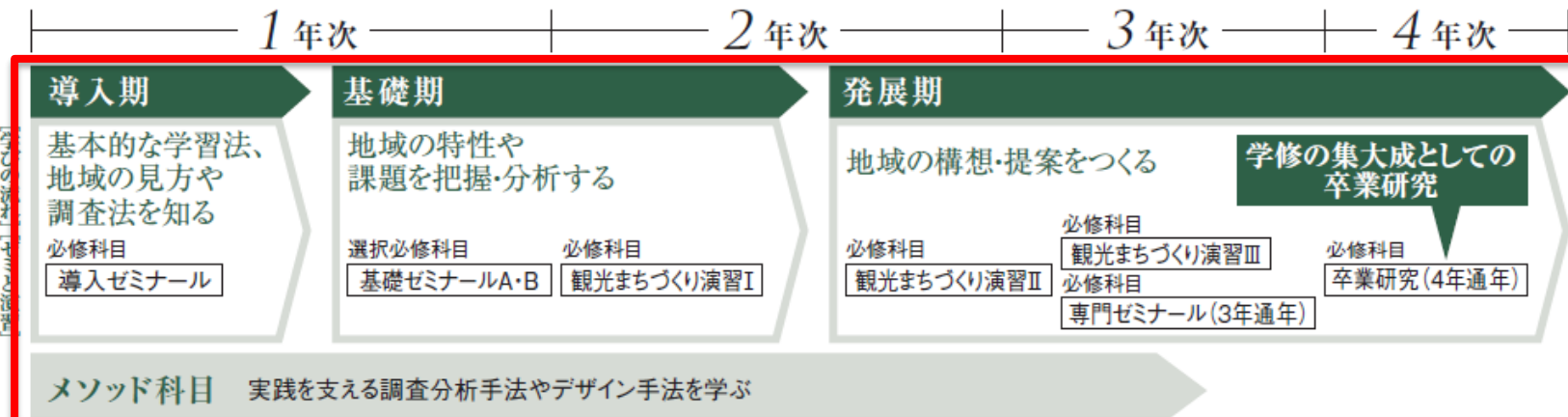
# 観光まちづくり学部のカリキュラム

観光・交流を基軸に持続可能な地域の形成及び振興に関する方法論を構築するとともに、豊かな教養と学識をもち、観光や交流を通じた活力あふれる地域社会の再生、活性化に貢献できる人材の育成

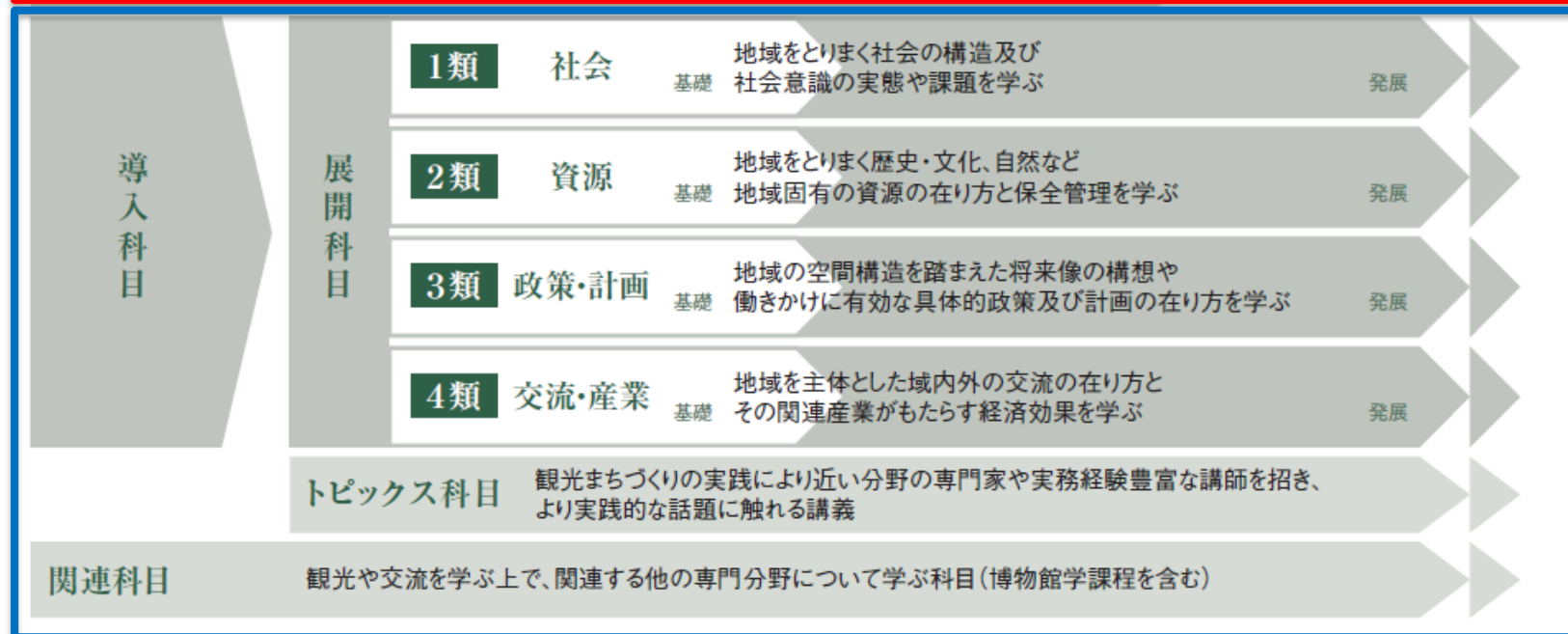
具体的には、

- 社会、資源、政策・計画、交流・産業、に関する知識・技能
- 地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力

# 観光まちづくり学部のカリキュラム

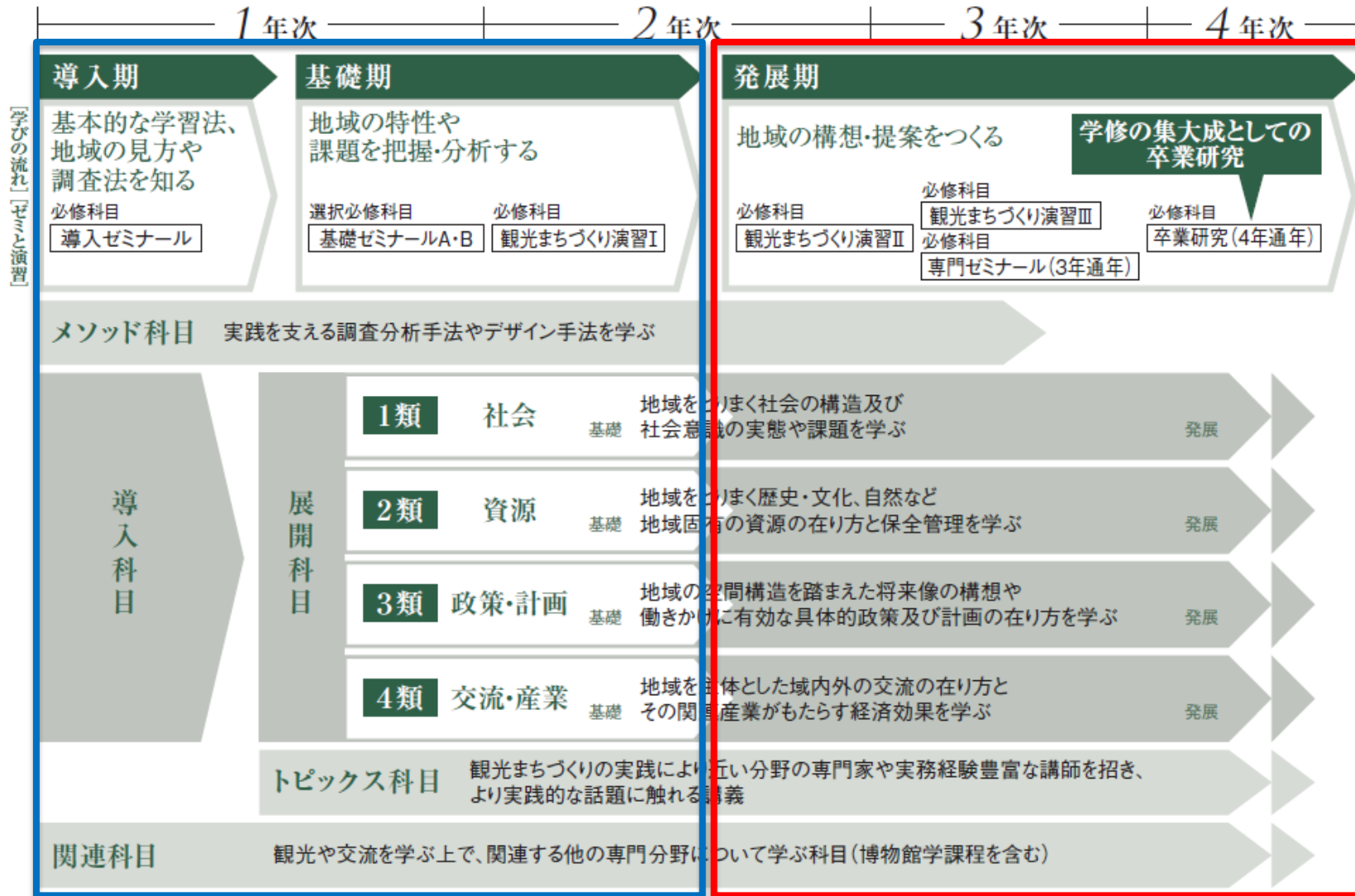


演習科目とメソッド科目で地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力



導入科目から展開科目で社会、資源、政策・計画、交流・産業、に関する知識・技能を身につける

# 観光まちづくり学部のカリキュラム



## 導入期・基礎期

多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基礎となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や地域に働きかけるまちづくりの基本的な知識と考え方を身につけます。

## 発展期

学生の興味・関心及び希望する進路に応じて、観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。

# 科目区分



導入科目

メソッド科目

演習科目

展開科目 基礎／発展

- ・ I類 (社会)
- ・ II類 (資源)
- ・ III類 (政策・計画)
- ・ IV類 (交流・産業)

トピックス科目

関連科目

科目区分ごとの開講科目を履修要綱P65-66で確認してください





# 卒業認定・学位授与方針 教育課程の編成・実施方針

## 卒業認定・学位授与方針 (P59)

A 知識・技能

B 思考力・判断力・表現力

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度



これらを満たすために…

## 教育課程の編成・実施方針 (P60)

科目区分とほぼ対応した6項目

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

科目区分		卒業認定・学位授与方針 (DP)						
		知識・技能			思考力・判断力・表現力		主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度	
		A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2
導入科目		◎						
メソッド科目				◎		◎		
演習科目	導入期					○	○	
	基礎期	○		○		○	○	
	発展期			○	◎	◎	◎	○
展開科目 基礎	I類	◎	○					
	II類	◎	○					
	III類	◎	◎					
	IV類	◎	◎					
展開科目 発展	I類	◎	◎					
	II類		◎					
	III類		◎					
	IV類		◎					
トピックス科目			◎		○	○	○	◎
関連科目		◎						

# 卒業要件と進級条件

## 【卒業のために必要な単位数】

本学に4年（8学期）以上在学し、所定の単位を修得すれば卒業と認定し、学士（観光まちづくり）の学位が授与される。ただし、1～4年の各年次に1学期以上在学することが必要である。卒業に要する単位数は下表のとおりである。

共通教育科目	26 単位以上
専門教育科目	74 単位以上
合計	124 単位以上 <sup>※1</sup>

※1 共通教育科目、専門教育科目から上表のとおり単位を修得し、合計 124 単位以上修得すること。

## 【進級条件】

進級の時期は各年度の初めとする。進級するには、各年次において学期以上在学することが必要である。ただし、**2年次から3年次への進級には、2年次終了までに3学期以上在学し、卒業に要する単位で34単位以上を修得していなければならない。**

# カリキュラムの構成と履修方法

科目区分		所要単位数	備考
導入科目	必修	2科目 4単位	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">卒業に必要な 科目・単位数</div> <p>左記の条件を満たした上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎Ⅰ～Ⅳ類で、13科目 26単位を修得すること。</li> <li>・展開科目全体で22科目 44単位以上を修得すること。</li> </ul>
メソッド科目	必修	1科目 2単位	
	選択必修	2科目 4単位	
演習	必修	6科目 18単位	
	選択必修	1科目 2単位	
展開科目	基礎Ⅰ類（社会）	選択必修 2科目 4単位	
	基礎Ⅱ類（資源）	必修 1科目 2単位	
		選択必修 2科目 4単位	
	基礎Ⅲ類（政策・計画）	必修 1科目 2単位	
		選択必修 2科目 4単位	
	基礎Ⅳ類（交流・産業）	必修 1科目 2単位	
選択必修 2科目 4単位			
発展Ⅰ～Ⅳ類		選択必修 6科目 12単位	
トピックス科目		選択	
関連科目		選択	
計		74単位	

計 74単位



# 必修科目

科目区分	科目名
導入科目	まちづくりと観光、社会学概論
メソッド科目	社会調査法入門
演習科目	導入ゼミナール 観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ 専門ゼミナール、卒業研究
展開科目	地域資源論 公共政策概論 観光学概論

マーカーで塗りつぶす

以上の科目を必ず修得すること

# 選択必修科目    メソッド科目

開講年次	科目名
1年次	プログラミングと数学基礎 統計分析の基礎
2年次	パブリックデザイン（地域と公共空間） パブリックデザイン（地域と杉） データサイエンス 質的調査法
3年次	多変量解析 地理空間情報分析

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

# 選択必修科目 演習科目

開講年次	科目名
1年次	基礎ゼミナールA
2年次	基礎ゼミナールB

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、1科目2単位以上を修得すること

基礎ゼミナールAとBの履修に関する説明会を6月に開催するので、必ず出席して、指示にしたがって履修を検討すること。

# 選択必修科目 展開科目 基礎I類

開講年次	科目名
1年次	文化社会学 コミュニケーション論
2年次	地域と環境の社会学 グローバル化論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

## 選択必修科目 展開科目 基礎Ⅱ類

開講年次	科目名
1年次	博物館概論
2年次	都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

# 選択必修科目 展開科目 基礎Ⅲ類

開講年次	科目名
2年次	地方自治概論 国土・都市計画論 地域デザイン論 都市と地域の交通

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

# 選択必修科目 展開科目 基礎Ⅳ類

開講年次	科目名
1年次	観光マーケティング
2年次	観光政策・計画論 観光事業論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

# 展開科目

さらに…

- 基礎 I ~ IV類より、必修科目、選択必修科目を含め、13科目26単位を修得すること
- 発展 I ~ IV類より、6科目12単位以上を修得すること
- 展開科目全体で22科目44単位以上を修得すること

マークで大きく丸で囲む

履修登録や成績発表の際に、修得単位数を必ず確認して、卒業要件を満たすように学修を進めること



# 履修条件

共通教育科目「経済理論入門」（1年・前期）



専門教育科目「地域と都市の経済」（2年・後期）

「地域と都市の経済」は、「経済理論入門」の単位修得が履修条件となる。

マーカーで塗りつぶす

# 履修が望ましい科目

専門教育科目

「プログラミングと数学基礎」 (1年・後期)



「データサイエンス」 (2年・後期)

「データサイエンス」は、「プログラミングと数学基礎」を事前に履修することが望まれる科目です。

履修要綱に書き込む

# おさらい

- 履修要綱をよく確認する。
- シラバスをよく読む。授業内容、成績評価や授業実施形態を確認する。
- 必修科目の登録を確認する。
- 履修条件や履修が望ましい科目を確認する。

「経済理論入門」と「地域の都市の経済」

「プログラミングと数学基礎」と「データサイエンス」

- 自らの興味や関心、目指すべき進路を考えて、履修科目を選択する。

悩んだときは…

# 履修相談会に参加する

観光まちづくり学部の教員が相談に乗ります

## <履修相談会>

1回目 2023年4月4日(火)13:00～15:00

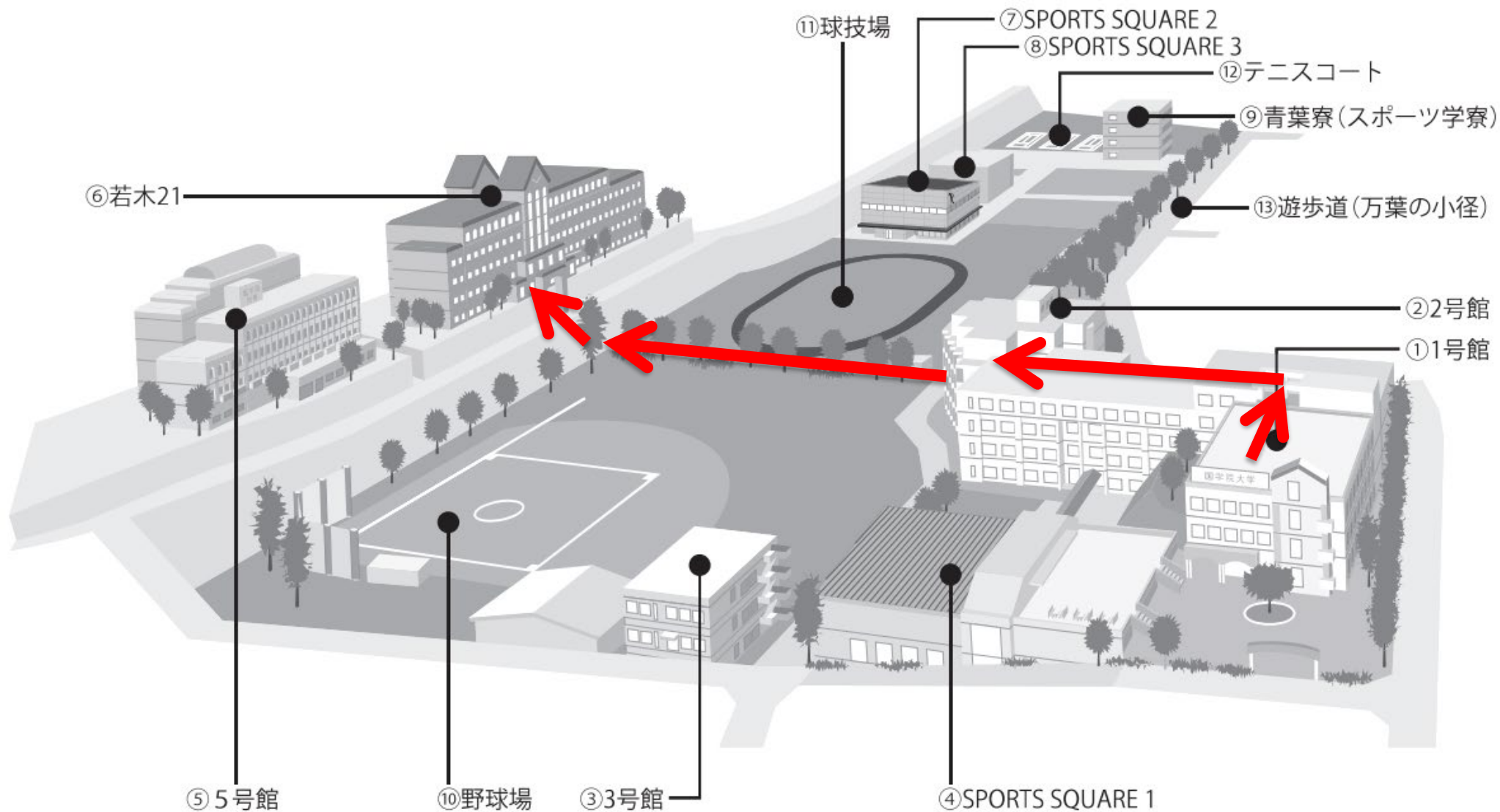
= 健康診断の前後に開催

2回目 2023年4月10日(月)15:00～17:00

= 「まちづくりと観光」の後に開催

会場 若木21 多目的ホール (いずれの回も)

# 若木21への行き方



# 教員に相談する

前期「導入ゼミナール」では

1年後期以降の履修科目について考える機会を設けます。

まずは、自ら考えてみて

- 「導入ゼミナール」の担当教員（＝ルーム担当教員）に相談しましょう
- 各科目の担当教員に直接話を聞いてみましょう

# 明日以降の各種ガイダンス

## ●観光まちづくり学科●

日付	対象	行事	時間	実施キャンパス	教室
4・2	全員	入学式	10:00~11:00	※グランドプリンスホテル新高輪	
4・4	全員	健康診断	女子 11:30~12:30 男子 15:30~16:30	たまプラーザ	1412教室
	希望者	学生相談室紹介ブース（カウンセラー待機）	9:30~16:30	たまプラーザ	エントランスホール
4・5	全員	図書館ガイダンス	13:00~13:30	たまプラーザ	1605教室
	全員	学部ガイダンス	14:00~16:00	たまプラーザ	1605教室
4・6	希望者	留学・国際交流ガイダンス	9:30~10:30	たまプラーザ	1605教室
	全員	就職に役立つキャリアガイダンス・資格講座説明会	10:40~12:00	たまプラーザ	1605教室
	希望者	博物館学芸員課程説明会	13:00~14:00	たまプラーザ	1605教室
	全員	キャンパスハラスメント防止ガイダンス	14:30~15:30	たまプラーザ	1410教室 1411教室
4・7	全員	大学生活トラブル防止ガイダンス	15:30~17:00	たまプラーザ	1605教室
配信	希望者	日本学生支援機構貸与奨学金および高等教育の修学支援新制度（給付奨学金・授業料等減免）新規採用	4月5日以降URL配信予定		
	希望者	日本学生支援機構貸与奨学金および高等教育の修学支援新制度（給付奨学金・授業料等減免）予約採用	4月3日以降URL配信予定		



# 連絡ツールレクチャー

CPガイダンスでK-SMAPYⅡのログイン作業を終えたら、以下の教室へ移動してください。

- 1402教室 iOS
- 1403教室 Android

混雑している場合、廊下の向かいの部屋で待ってください！

# 学部ガイダンス

## 観光まちづくり学部

### 観光まちづくり学部 2年生ガイダンス

11:30-	開始
11:35-11:55	学部カリキュラムと今後の履修計画について
11:55-12:00	学生生活について
12:00-12:10	観光まちづくり演習 I について
12:10-12:20	連絡ツールレクチャー
12:20-12:30	質疑応答
12:30	終了

# 学部カリキュラム 今後の履修計画

## 観光まちづくり学部

### 履修登録期間

1次〆切 4/6(木)12:50  
2次〆切 4/13(木)12:50

項目/日程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
オリエンテーション期間 (4/1~)										第1週目			第2週目			第3週目															
★入学式										★授業開始																					
希望優先方式事前登録(1次募集)	●							★																							
一般登録方式事前登録(1次募集)	●							★																							
希望優先&一般登録方式事前登録(2次募集)										●					★																
一般登録	●									●																					
履修修正																															

※登録開始は全て12:00  
※登録終了は全て12:50  
※結果発表は全て20:00

## 履修登録に関わる重要な変更 年次履修単位制限(CAP制)

### 変更点

学期ごとの履修単位は制限されません

➡前期と後期でバランスよく学修できる履修計画を立てましょう

### 新

年次	1年次	2年次	3年次	4年次
単位数	42 (前期 23 単位)	42	42	48

### 旧

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	23※1	23※1	23※1	23※1	23※1	23※1	24※1	24※1
	42※2		42		42		48	

## 履修登録に関わる重要な変更 英語科目の履修

「英語Ⅲ（●●）」 「英語Ⅳ（●●）」 「英語Ⅴ（●●）」 が履修可能になります。  
これまでは「英語ⅠⅡⅢⅣ」のみ履修可能だったため、学修の幅が広がりました。

### <履修できるようになった科目例>

「英語Ⅲ（検定試験対策）」

「英語Ⅲ（英字新聞を読む）」

「英語Ⅲ（日本文化を英語で読む）」など

詳しくは、開講講座表を確認してください。

## 履修に関わる重要な変更 基礎日本語

「基礎日本語」の名称が「アカデミックリテラシーⅠ」に変更されます。  
R5年度から「基礎日本語」ではなく、「アカデミックリテラシーⅠ」を履修してください。

### <変更>

新名称 「アカデミックリテラシーⅠ」

旧名称 「基礎日本語」

「基礎日本語（●●）」といった名称の科目は、昨年度と同様に履修することができます。

## 履修計画を立てよう

興味・関心に応じて、卒業後の進路に向けて、  
2年次にどのようなことを学ぶべきかを考え、履修計画を立てましょう！

### 履修計画を立てるために

- ・ 観光まちづくり学部のカリキュラムを確認する
- ・ カリキュラムツリーや履修モデルを確認する
- ・ 専門ゼミナールや卒業研究で取り組みたいことを考えてみる
- ・ 卒業要件の確認を確認する

# 履修計画を立てよう カリキュラム

2年次は基礎期から発展期への過渡期

## 観光まちづくり演習ⅠⅡ

→観光まちづくりの手法を実践的に学ぶ

## 展開科目基礎・発展

→観光まちづくりの基礎を学ぶ

→進路や興味関心に応じて観光まちづくりの発展を学ぶ

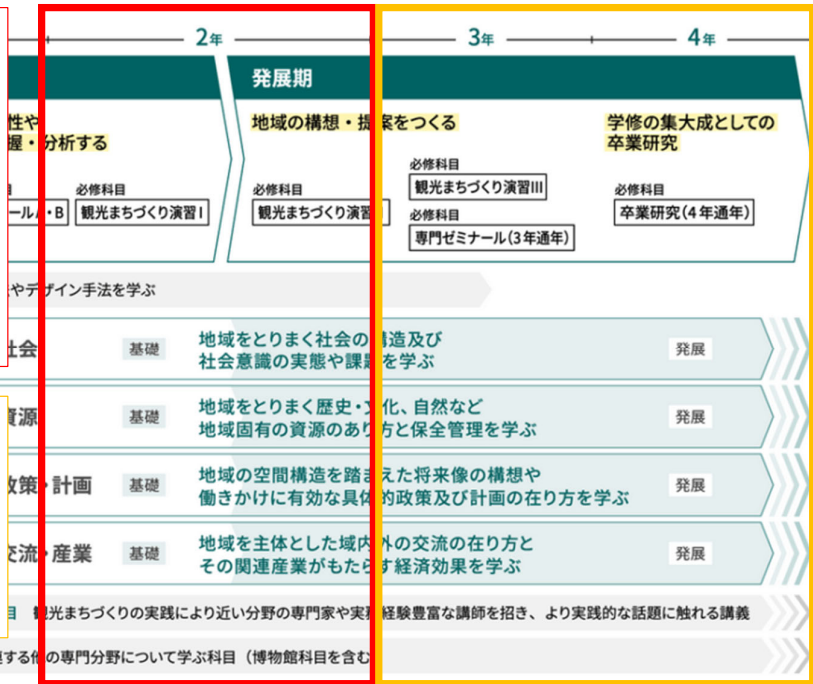
## 観光まちづくり演習Ⅲ

→観光まちづくりから地域を構想する

## 専門ゼミナール・卒業研究

→進路や関心に応じた観光まちづくりの学び

関連科目 観光や交流を学ぶ上で、関連する他の専門分野について学ぶ科目（博物館科目を含む）

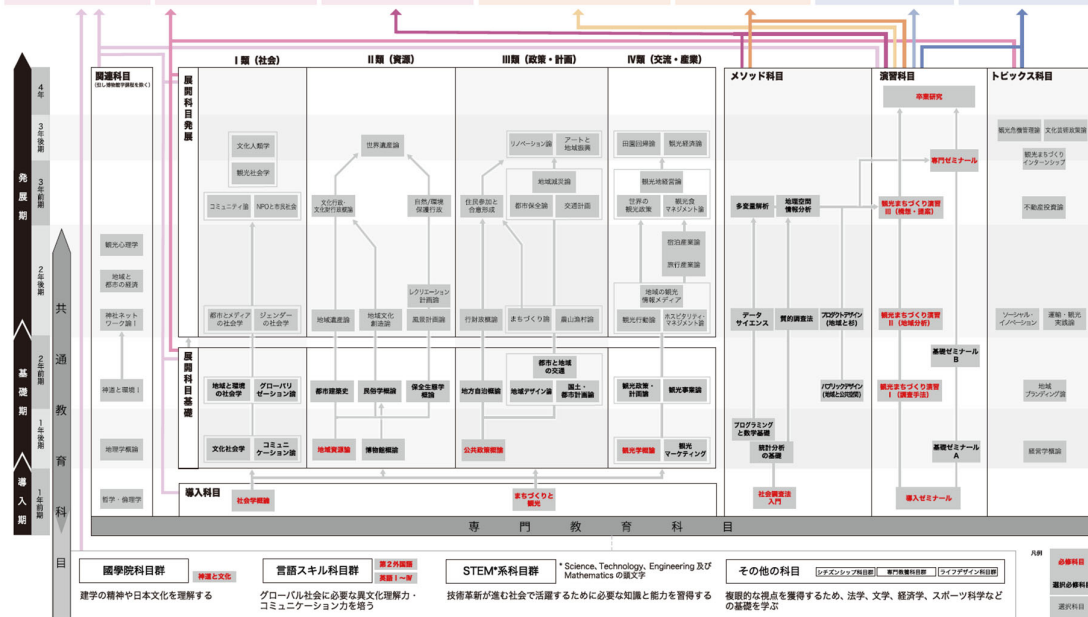


# 履修計画を立てよう カリキュラムツリー

国学院大学 観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 カリキュラムツリー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

A 知識・技能	B 思考力・表現力・判断力	C 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
DP-A1 多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。	DP-B1 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べるができる。	DP-C1 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。
DP-A2 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の構造、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。	DP-B2 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。	DP-C2 学修した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。



専門教育科目には学ぶべき、学んでほしい順序があります！

制限はありませんが、**カリキュラムツリー**で学ぶ**順序**を確認して、2年次に履修する科目を考えましょう！

# 履修計画を立てよう 履修モデル

履修モデルA：社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生 p.18

履修モデルB：歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生 p.19

履修モデルC：自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生 p.20

履修モデルD：公共政策から観光まちづくりを学びたい学生 p.21

履修モデルE：空間づくり・計画づくりから観光まちづくりを学びたい学生 p.22

履修モデルF：観光関連産業での事業・経営から観光まちづくりを学びたい学生 p.23

## 訂正 (P18)

履修モデルA内の1年共通教育科目「科学的思考法」は必修科目ではありません。

# 履修モデル

履修モデル A		社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生			
<p>◆展開科目I類(社会)、メソッド科目、展開科目II類(政策・計画)を積極的に履修します。</p> <p>◆地域を取り巻く社会や生活の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を身につけます。</p> <p>◆進路として、公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材を想定しています。</p>					
太字：必修科目、( )：単位数※無記載は2単位					
	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 留学の学び 情報科学入門 政治と社会参加(NPO)			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	データサイエンス 質的調査法	プロダクトデザイン(地域と形) 多変量分析		
演習	導入セミナー	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)	
展開 基礎	[[1]]文化社会学 コミュニケーション論 [[2]]地域経済論 博物館論 [[3]]公共政策概論 [[4]]観光学概論 観光マーケティング	[[1]]地域と環境の社会学 グローバルイノベーション論 [[2]]都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論 [[3]]公共政策概論 [[4]]観光学概論 都市と地域の交通 [[5]]観光事業論			
展開 発展		[[1]]都市とメディアの社会学	[[1]]ジェンダーの社会学 NPOと市民社会 観光社会学 文化人類学 [[2]]地域文化創造論 高度情報論 文化行政・文化財行政概論 [[3]]まちづくり論 高山山村論 住民参加と合意形成 地域復興論 [[4]]観光学概論 [[5]]地域の観光情報メディア		
トピックス		ソーシャル・イノベーション			
関連	哲学・倫理学				
単位数	42単位	42単位	40単位		合計124単位

履修モデル B		歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生			
<p>◆展開科目II類(資源)の科目を中心に、歴史・文化を主な対象として扱う科目を各履修から積極的に履修し、必要に応じて博物館学芸員課程を履修します。</p> <p>◆歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランスよく身につけます。</p> <p>◆進路として、歴史・文化の保存と活用と直接関与する博物館等の学芸員や職員、公務員、歴史・文化を有する地域の観光協会、DMO、まちづくり組織の職員、歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。</p>					
太字：必修科目、( )：単位数※無記載は2単位					
	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間 比較文化論Ⅰ			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	プロダクトデザイン(地域と形) 質的調査法			
演習	導入セミナー	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 専門ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)	
展開 基礎	[[1]]文化社会学 コミュニケーション論 [[2]]地域経済論 博物館論 [[3]]公共政策概論 [[4]]観光学概論 観光マーケティング	[[1]]地域と環境の社会学 グローバルイノベーション論 [[2]]都市建築史 民俗学概論 [[3]]公共政策概論 [[4]]観光学概論 [[5]]観光事業論			
展開 発展		[[1]]地域遺産論 風景計画論 [[2]]まちづくり論 [[3]]地域の観光情報メディア	[[1]]ジェンダーの社会学 文化人類学 [[2]]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 世界遺産論 [[3]]行政概論 アートと地域振興 [[4]]観光学概論 [[5]]観光事業論		
トピックス		文化芸術政策論			
関連		博物館学芸員課程(1)			
単位数	42単位	42単位	40単位		合計124単位(博物館学芸員課程の単位は含まない)

履修モデル C		自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生			
<p>◆展開科目からII類(資源)の科目を中心に、自然・環境を主な対象として扱う科目を各履修から積極的に履修し、関連科目も履修します。</p> <p>◆自然・環境の保護と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランスよく身につけます。</p> <p>◆進路として、自然・環境の保護と利用と直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。</p>					
太字：必修科目、( )：単位数※無記載は2単位					
	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法	地理空間情報分析		
演習	導入セミナー	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)	
展開 基礎	[[1]]文化社会学 コミュニケーション論 [[2]]地域経済論 博物館論 [[3]]公共政策概論 [[4]]観光学概論 観光マーケティング	[[1]]地域と環境の社会学 グローバルイノベーション論 [[2]]民俗学概論 保全生態学概論 [[3]]国土・都市計画論 [[4]]観光学概論 [[5]]観光事業論			
展開 発展		[[1]]風景計画論 レクリエーション 計画論 まちづくり論	[[1]]都市とメディアの社会学 観光社会学 [[2]]地域遺産論 文化行政・文化財行政概論 自然/環境保護行政概論 [[3]]高山山村論 住民参加と合意形成 地域復興論 [[4]]地域の観光情報メディア 観光地経営論 観光食マネジメント論 観光経済論 国際関係論		
トピックス			観光まちづくりインターンシップ		
関連	地理学概論	神社ネットワークⅠ			
単位数	42単位	42単位	40単位		合計124単位



# 履修モデル

履修モデル D		公共政策から 観光まちづくりを学びたい学生			
<p>◆展開科目Ⅱ類(政策・計画)の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修し、政策や計画の分析・策定・実行のための能力を身につけます。</p> <p>◆特に、3年次以降は、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの方を見かね備えています。</p> <p>◆進路として、公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員や、出版、放送、広告の分野で活躍する人材を想定しています。</p>					
太字：必修科目、( )：単位数※無記載は2単位					
	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 法学(日本憲法) 行政と市民生活 経済学入門	英語Ⅱ・Ⅲ 国際学院の学び 日本文化を知る			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	パブリックデザイン(地域と公共空間) 質的調査法	多変量解析		
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)	
展開・基礎	[[1]]文化社会学 [[2]]地域資源論 [[3]]都市経済学 [[4]]公共政策概論 [[M]]観光マーケティング	[[1]]地域と環境の社会学 グローバル化と社会学 [[2]]都市経済学 [[3]]地方自治概論 [[4]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]コミュニケーション論 [[2]]地域資源論 [[3]]公共政策概論 [[M]]観光マーケティング		
展開・発展	[[1]]ジェンダーの社会学 [[2]]風業計論 [[3]]行政概論 [[4]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]コミュニケーション論 [[2]]地域文化創造論 [[3]]まちづくり論 [[4]]都市保全論 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]境界計論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論		
トピックス		文化芸術政策論 観光まちづくりインターンシップ			
関連		地域と都市の経済			
単位数	42単位	42単位	40単位		合計124単位

履修モデル E		空間づくり・計画づくりから 観光まちづくりを学びたい学生			
<p>◆メソッド科目とトピックス科目を積極的に履修しながら、展開科目Ⅱ類(資源)とⅡ類(政策・計画)の科目、関連科目も履修します。</p> <p>◆空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く身につけます。</p> <p>◆2年次以降、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの方を見かね備えています。</p> <p>◆進路として、宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野や、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材を想定しています。</p>					
太字：必修科目、( )：単位数※無記載は2単位					
	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門 科学的思考法	英語Ⅱ・Ⅲ 地球環境と人間 法と社会参加 日本の経済			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	データサイエンス プログラミングと数字感覚	パブリックデザイン (地域と公共空間) 地理空間情報分析		
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)	
展開・基礎	[[1]]コミュニケーション論 [[2]]地域資源論 [[3]]公共政策概論 [[M]]観光マーケティング	[[1]]コミュニケーション論 [[2]]都市歴史 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]コミュニケーション論 [[2]]都市歴史 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論		
展開・発展	[[1]]境界計論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]境界計論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]境界計論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論		
トピックス		地域ブランディング論	不動産投資論 観光危機管理論		
関連	地理学概論		観光社会学概論Ⅰ		
単位数	42単位	42単位	40単位		合計124単位

履修モデル F		観光関連産業での事業・経営から 観光まちづくりを学びたい学生			
<p>◆展開科目Ⅲ類(交流・産業)の科目を積極的に履修し、地域主体の交流・産業を創出するための能力を身につけます。</p> <p>◆1年次からトピックス科目を履修し、実務的なものの方を見かね備えています。2年次には関連科目も履修します。</p> <p>◆進路として、宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材を想定しています。</p>					
太字：必修科目、( )：単位数※無記載は2単位					
	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知 コンピュータと情報Ⅰ 経済学入門	英語Ⅱ・Ⅲ Japan Studies 情報科学入門 経済経営学入門			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法			
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)	
展開・基礎	[[1]]コミュニケーション論 [[2]]地域資源論 [[3]]公共政策概論 [[M]]観光マーケティング	[[1]]コミュニケーション論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]コミュニケーション論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論		
展開・発展	[[1]]境界計論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]境界計論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論	[[1]]境界計論 [[2]]観光社会学 [[3]]観光社会学 [[4]]観光社会学 [[5]]観光社会学 [[6]]観光社会学 [[7]]観光社会学 [[8]]観光社会学 [[9]]観光社会学 [[10]]観光社会学 [[M]]観光政策・計画論		
トピックス		観光社会学概論	運輸・観光実務論 観光まちづくりインターンシップ		
関連		地域と都市の経済 観光心理学			
単位数	42単位	42単位	40単位		合計124単位

## 専門ゼミナール・卒業研究

本学部では、学業の集大成として、全学生が**卒業研究**に取り組みます。卒業研究は、**3年次「専門ゼミナール」、4年次「卒業研究」(いずれも必修科目)**を履修して、一人の教員のもとで2年間をかけて、論文、計画、制作を完成させます。

「専門ゼミナール」「卒業研究」の担当教員は、2年次後期の専門ゼミナール所属選考(詳細は改めてお知らせ予定)を通じて決定します。

「専門ゼミナール」の履修に向けて、観光まちづくり学部の教員の研究分野や専門性を理解しておきましょう。自分の興味・関心のある分野の科目と教員に注目して、2年次の履修計画を立てましょう!



## 履修計画を立てよう 卒業要件

### 卒業に必要な 科目・単位数

科目区分		所要単位数	備考
導入科目		必修 2科目 4単位	
メソッド科目		必修 1科目 2単位	
		選択必修 2科目 4単位	
演習		必修 6科目 18単位	
		選択必修 1科目 2単位	
展開科目	基礎Ⅰ類（社会）	選択必修 2科目 4単位	左記の条件を満たした上で、 ・基礎Ⅰ～Ⅳ類で、13科目 26 単位を修得すること。 ・展開科目全体で22科目 44単 位以上を修得すること。
	基礎Ⅱ類（資源）	必修 1科目 2単位	
		選択必修 2科目 4単位	
	基礎Ⅲ類（政策・計画）	必修 1科目 2単位	
		選択必修 2科目 4単位	
	基礎Ⅳ類（交流・産業）	必修 1科目 2単位	
選択必修 2科目 4単位			
発展Ⅰ～Ⅳ類		選択必修 6科目 12単位	
トピックス科目		選択	
関連科目		選択	
		計	74単位

## 個人用パソコン（ノート型）の持参を推奨する科目

本学部では、授業中に個人用パソコンを利用する科目が多数あります。特に、以下の科目は、授業時に毎回個人用パソコンを持参してください。選択必修科目に指定された科目については、この条件に注意して、受講してください。なお、個人用パソコンを所有していない場合は、CP教室内のパソコンなどを利用してください。

### 前期

「観光まちづくり演習Ⅰ」  
「基礎ゼミナールB」（担当教員による）

### 後期

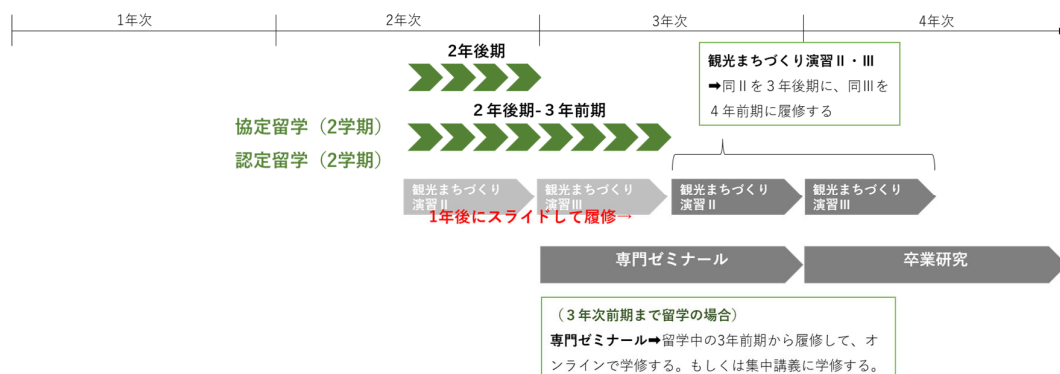
「観光まちづくり演習Ⅱ」  
「データサイエンス」

## 留学を希望する場合

在学期間中に留学を希望する学生は、たま事務課を通じて、本学部教員へ連絡してください。教員と相談の上で、本学部のカリキュラムの特性を踏まえた上で、留学と標準修業年数（4年間）で卒業することを両立する履修計画を作成してください。

### 本学部の方針

- 「観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ」は、順序性を保って履修することが望ましい。留学後、あるいは留学を前後して、必ず前述した順序で履修することを原則とする。



## 基礎ゼミナールAB

令和5年度前期の「基礎ゼミナールB」は指定科目です。昨年度の抽選結果で決定した履修者は既に登録されています。

令和5年度後期「基礎ゼミナールA」、令和6年度前期「基礎ゼミナールB」の履修を希望する場合、下記の説明会に参加してください。

### R5年度基礎ゼミナール説明会

日時：2023年5月24日(水)・5限 (16:35-18:05)

会場：1号館 1605教室

内容：各課題の概要や履修方法などについて説明

## 必修科目の再履修 専門教育科目

以下の科目の再履修をする学生は、すでに科目が自動登録されていますので、K-SMAPY II で曜日・時限を確認し、受講してください。

### 前期

- 「社会学概論」木曜 3 限
- 「まちづくりと観光」月曜 3 限
- 「社会調査法入門」木曜 4 限
- 「導入ゼミナール」木曜 2 限・金曜 2 限

### 後期

- 「地域資源論」月曜 3 限
- 「公共政策概論」火曜 2 限
- 「観光学概論」木曜 1 限

## 共通教育科目・必修科目

### 英語

「英語 I II III IV」は必修科目で、卒業までに全 8 単位を修得する必要があります。1 年次に「英語 I II」のいずれか、または両方を未修得の場合は、2 年次終了までに 8 単位を修得するよう、「英語（再）／英語（総合基礎）」を履修してください。

### 神道と文化

「神道と文化」は必修科目で、卒業までに修得する必要があります。1 年次に未修得の場合は、再履修者向けの「神道と文化」（オンデマンド型授業）を履修してください。

## 共通教育科目 選択必修科目

### 第二外国語の再履修

第二外国語「●●語ⅠⅡ」は選択必修科目で、卒業までに同一言語で4単位を修得する必要があります。1年次に「●●語ⅠⅡ」のいずれか、または両方を未修得の場合は、2年次に必ず第二外国語「●●語ⅠⅡ」のいずれか、または両方を再履修してください。

### <言語の変更>

2年次開始時の1回のみ、言語を変更することができます。

言語の変更を希望する学生は、1回目の履修登録期限までにたま事務課へ相談してください。

## 履修相談会

観光まちづくり学部の教員が履修計画の相談に乗ります

### <履修相談会>

日時 2023年 4月 4日(火)13:00～15:00

2022年 4月10日(月)15:00～17:00

会場 若木21 1F 多目的ホール (いずれの回も)

## 國學院大學観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程

(目的)

**第1条** 國學院大學観光まちづくり学部における学部運営の点検評価及び改善に関する提言、並びに地域マネジメント研究センターの運営に関する提言、及び地域・社会への貢献を組織的に行うために観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会（以下「本委員会」という。）を設置する。

(構成)

**第2条** 本委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 外部委員 3名以内
- (2) 学部長
- (3) 副学部長
- (4) 地域マネジメント研究センター長
- (5) 地域マネジメント研究センター副センター長
- (6) 教務担当教員
- (7) 入試担当教員
- (8) 事務課員

2 本委員会の委員長は、観光まちづくり学部長とする。

3 本委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 外部委員の選出にあたっては、教授会の承認を得るものとする。

5 本委員会の幹事は、副学部長とする。

6 本委員会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求めることができる。

(委員会)

**第3条** 本委員会は、委員長が招集し、議長となる。委員長に事故あるときは、予め指名された委員が議長となる。

2 本委員会は、原則として毎年度1回開催する。なお、委員長が必要と認めるときは臨時に委員会を招集することができる。

(活動)

**第4条** 本委員会は、第1条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) 学部運営の点検・評価
- (2) 学部運営の改善に関する提言
- (3) 地域マネジメント研究センターの運営に関する助言
- (4) 地域、並びに外部機関との連携推進に関する助言・提言

(改廃)

**第5条** この規程の改廃は、本委員会の議を経て、観光まちづくり学部教授会の承認を得るものとする。

**附 則**

この規程は、令和5年3月10日から施行する。

# 別紙 4

令和4年度 観光まちづくり学部・教務委員会 開催実績

回次	開催日時	石山	井門	金	児玉	下村	清野	十代田	西村	潘	堀木	松本	備考
1	4月13日10:30～12:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
2	4月27日10:30～12:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
3	5月11日10:30～12:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
4	5月25日10:30～12:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
5	6月8日13:30～15:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
6	6月22日13:30～15:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
7	7月6日13:30～15:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
8	7月20日10:30～12:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
9	9月21日10:30～12:00		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
10	10月5日13:00～15:00		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
11	11月9日(水)13:00～15:00		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
12	12月7日(水)13:00～15:00		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
13	1月11日(水)10:30～12:00		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
14	2月8日(水)13:00～15:00		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド
15	3月8日(水)13:00～15:00		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハイブリッド

第 1 回  
観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

<次 第>

日 時 令和 5 年 3 月 1 4 日 (火) 17:30～

場 所 たまプラーザキャンパス

若木21地下会議室

1 開 会

2 議 題

- (1) 本委員会の目的と観光まちづくり学部の目標と学びについて
- (2) 地域マネジメント研究センター（CMI）の概要について
- (3) 令和 4 年度入学者の概要と令和 5 年度の入学者見込みについて
- (4) 令和 5 年度事業計画（案）について
- (5) その他

3 閉 会

【配布資料】

- 冊子 学部ガイドブック、機関誌『観光まちづくり 第 2 号』
- 資料 1 國學院大學観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程
- 資料 2 令和 4 年度地域マネジメント研究センター（CMI）活動報告
- 資料 3 令和 5 年度事業計画（案）

観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会 名簿（出欠）

順不同・敬称略

	所属・役職	氏名
外部 委員	立教大学 名誉教授	安島 博幸
外部 委員	(一社)由布市まちづくり観光局 代表理事	桑野 和泉
外部 委員	天童温泉協同組合 理事長	山口 敦史 欠
委 員	國學院大學 観光まちづくり学部 教授	梅川 智也
委 員	國學院大學 観光まちづくり学部 教授	楓 千里
委 員	國學院大學 観光まちづくり学部 教授	下村 彰男
委 員	國學院大學 観光まちづくり学部 准教授	清野 隆
委 員	國學院大學 観光まちづくり学部 准教授	河 炅 珍
委 員	國學院大學 観光まちづくり学部 学部長・教授	※西村 幸夫
委 員	國學院大學 観光まちづくり学部 准教授	*松本 貴文
委 員	國學院大學 観光まちづくり学部 教授	米田 誠司
事 務	國學院大學たまプラーザ事務課課長補佐	佐藤 友宏
事 務	地域マネジメント研究センター (CMI) 主任	三上 良子

※ 委員長

\* : 自己点検・評価委員



令和 5 年 2 月 27 日

國學院大學 学長 殿

学部長 西村 幸夫 (印省略)

## 令和 4 年度「FD 推進助成 (甲) 学部 FD 推進事業」事業報告書

標記のことに、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	観光まちづくり学部
事 業 名	「観光まちづくり演習」の開講に向けたスキルアップ事業
令和 4 年度 実務担当者名	松本 貴文
<b>事 業 の 概 要</b>	
<p>以下、<u>本年度実施した推進事業の概要</u>について、申請時に提出した「事業申請書」の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>1. 事業の目的</p> <p>本事業は、観光まちづくり学部の必修科目である「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(以下、「本演習」)の開講に向けて、教員のスキルアップをはかることを目的とした。具体的には、①多様な学問領域を専門とする複数の教員が指導にあたること、②地域分析や課題解決提案に向けて様々なツールを用いること、③具体的な地域の状況を分析し課題解決のための提案までを目標とすること、という本演習の特徴に対応した研究会・研修会を実施することにした。</p> <p>2. 事業の内容</p> <p>本事業の具体的な活動内容は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 担当教員の相互理解を目的とした研究会</li> <li>② 本演習で利用を検討している地理情報システムや地域経済分析システムなどの利活用に関するツール研修会</li> <li>③ 本演習の対象予定地域について熟知している外部講師を招いての地域理解研修会</li> <li>④ 各種研修後のアンケート調査</li> <li>⑤ ①～④を踏まえた最終報告書の作成</li> </ol> <p>3. 事業の計画</p> <p>各活動については、以下のようなスケジュールで実施することとした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 担当教員の相互理解を目的とした研究会：毎月開催</li> <li>② ツール研修会：2回開催(6月・7月)</li> <li>③ 地域理解研修会：2回開催(10月・11月)</li> <li>④ アンケート調査の実施：②～③の各研修会后</li> <li>⑤ 最終報告書の作成(令和4年2月)</li> </ol>	

## 事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？(または「今後達成できそうですか?」) (いずれかにチェック☑)

十分達成できた(できる) 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、本年度実施した推進事業の結果について、申請時に提出した「事業申請書」の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記自己評価(チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及)に照らしてご記入ください。

本事業では、本演習の3つの特徴に対応した研究会・研修会を実施することを目的とした。3つの特徴に対応する具体的な活動が、①担当教員の相互理解を目的とした研究会、②ツール研修会、③地域理解研修会であった。事業計画では、①を毎月、②を上期、③を下期に実施することとしていた。また、事業の点検・評価に関しては研修会後のアンケート調査や、教務委員会や学部教授会での報告を通して行うこととしていた。

このような計画に対し、具体的な実施状況は以下の通りである。①の相互理解を目的とした研究会は、計11回開催した(実施日:令和4年4月27日、5月11日、5月25日、6月1日、6月29日、11月2日、12月14日、12月21日、令和5年1月10日、1月18日、2月1日)。各回では教員による研究テーマの紹介のほか、授業におけるICTツールの活用や令和5年度に開講される観光まちづく練習Ⅰ・Ⅱの進め方についての説明や検討が行われた。

②のツール研修会については、上期に2回の開催を予定していたものの、講師の依頼に時間を要し下期に実施となった。令和5年1月11日には、大阪公立大学文学部の木村義成先生をお招きして、GISに関する研修会を開催した。木村先生には、GIS初学者に向けた授業の目標設定のあり方や、学生の関心を引き出すための日常生活や社会におけるGISの応用例、GISで一体何ができるのか(考え方や具体的な研究の事例)など、GISを用いた教育におけるポイントを多角的にお話いただいた。令和5年2月21日には、design office kk 代表の上綱久美子先生をお招きし、デザイン表現に関する研修会を開催した。上綱先生には、事前アンケートの結果などを踏まえつつ、デザイン表現とは何か、デザイン表現で重要となる考え方、デザイン表現に関する教育実践例、デザインを用いた地域連携活動の具体例などについてお話いただいた。いずれの研修会も終了後にアンケート調査を実施し、テーマの適切性、職能改善・授業改善への効果、内容のわかりやすさの3点について、肯定的な評価が得られた。

③の地域理解研修会については、下期に2回実施を予定していたが、本演習の対象地域が確定するまでに時間を要したこともあり、講師の選定が間に合わず実施することができなかった。ただし、令和4年7月20日には滝川市中島純一副市長に、令和5年2月1日には日光市粉川昭一市長にそれぞれお越しいただき、専任教員を対象に地域の特徴や課題についてお話を伺う機会があった。このように、当初計画とは異なるかたちではあるものの、地域理解の機会を設けることができた。

これらの結果を踏まえ、目的の達成については地域理解研修会が開催できなかったことから「大幅な修正の上達成可」と判断した。実施した研究会・研修会の内容については肯定的な評価が得られており、計画通り実施できなかった地域理解研修会についても本演習の質の向上にとっては重要であると考えられるため、事業内容については「概ね適切であった」と評価した。点検・評価・共有については、研修会の受講者に対するアンケート調査や研修会録画データの共有などを実施しており、「一定の点検・評価・共有ができた」と判断した。なお、本年度実施できなかった地域理解研修会については、次年度以降の学部FD推進事業のなかで取り組む予定である。

## 今後の展望

**【改善・期待される効果】**本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的でしたか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない (いずれかにチェック☑)

効果的である／ないと判断した理由を、これまでの学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

研修会後に実施した受講者へのアンケート調査では、「研修会の内容は職能改善・授業改善に向けて参考になりましたか」という質問を設けた。これに対し、「参考になった」・「どちらかといえば参考になった」という肯定的回答の割合は、GIS 研修会で 100% (回答者 15 人)、デザイン表現研修会で 90% (回答者 10 人) だった。したがって、本事業で得た知見は、教授法や授業改善に「効果的である」と判断した。

いずれの研修会でも、講師の先生方のご経験に基づいて具体的にポイントを示していただいたことが、上記のような評価につながったと考えられる。一方で、アンケート調査では、質問の時間をもう少し確保してほしい、実際に作業を行ってみたい(アクティブ・ラーニング形式を取り入れてほしい)などの意見も寄せられた。今後はこうした点を考慮しながら、研修会を企画していきたい。

また、アンケート調査では、観光まちづくり演習の開講に向けて、他大学で行われているフィールドワークを取り入れた演習科目の事例紹介や、対象地域の情報を紹介する研修会を開催してほしいとの要望も複数寄せられた。次年度は、こうしたテーマを中心に学部 FD 推進事業に取り組んでいきたい。

**【汎用性・波及効果】**本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果が見込まれますか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない (いずれかにチェック☑)

効果的である(ない)と判断した理由を、これまでの当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

教員の相互理解を目的とする研究会は、教員間での教育・研究に関するコミュニケーションを活性化させる方法として、他学部でも応用できる可能性がある。また、GIS やデザイン表現の技法は、観光まちづくり学部だけでなく多くの学部の教育や職能改善に効果が期待できると考えられる。たとえば、GIS は、都市計画、交通、公衆衛生、防災、マーケティングなど幅広い分野で活用されており、他学部の教育・研究の場でも利用できる可能性がある。また、デザイン表現についても、基本的な考え方を授業の資料作成などに応用することが可能である。

したがって、本事業の汎用性・波及効果については、「効果的である」と判断した。

**【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？**

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

1. 中間報告前

当初計画ではツール研修会を上期に実施する予定であったが、前述の通り開催の遅れが生じてしまった。そのため、研修会の実施に関連する消耗品費、用品費、旅費、手数料の執行を行うことができなかった。

2. 中間報告後

下期に入りツール研修会開催の目途が立ったため、事前準備のため消耗品費、用品費、図書資料費を執行した。また、2度の研修会の開催にともない、旅費と手数料を執行した。GIS 研修会については文字起こしを委託し、労務委託料も執行した。それぞれ概ね当初計画で予定していた金額であった。

ただし、地域理解研修会を開催できなかったため、図書資料費、旅費、手数料の一部が未執行となった。また、研修会の文字起こしについても、地域理解研修会の未実施やデザイン表現研修会の開催時期が遅くなってしまい委託ができなかったため、低い執行率となった。

**【成果報告会】成果報告会の内容(説明事項、共有事項、問題提起等)について現時点での概要をお書きください。**

1. 説明事項

事業の結果について、受講者アンケートの内容などを示しながら報告する。また、本年度の結果を踏まえて、次年度以降の展望や取り組むべき課題についても整理する。

2. 共有事項

教員の相互理解のための研究会の概要や、GIS 研修会・デザイン研修会の内容で、とりわけ、全学的に共有することが有益であると考えられるポイントについて報告する。

## 令和4年度地域マネジメント研究センター（CMI）活動報告

本学部では本学部と地域・社会を結び、両者の発展に寄与し、観光を軸とした持続可能な魅力ある地域づくりに貢献することを目的に、地域マネジメント研究センター（CMI）を学部設置と同時に開設した。センターは①研究推進・支援機能②地域連携機能③企画・運営機能の3つに機能を有しており、機能ごとの活動を報告する。

### ① 研究推進・支援機能

- ・包括連携地域の岐阜県高山市との共同研究の推進

高山市並びに一般財団法人飛騨高山大学連携センターと「観光まちづくり」に関する調査研究を共同して実施している。事業期間は、令和3年4月より概ね3カ年とし、以下の3つの柱で調査研究事業を実施する。

- (1) 飛騨高山における観光まちづくりのあり方を考えること
- (2) 具体的な観光まちづくりとして、モデル地域において実践すること
- (3) 観光まちづくりを通して学びの機会を提供する人材育成に取り組むこと

- ・「観光まちづくりライブラリー」の開設

本学部の学びに関する図書及び観光まちづくりに関する専門図書・資料や情報収集・提供・保存を目的に開設した。現在図書約2,200冊、雑誌約95タイトル、地域情報誌、ガイドブックなどを蔵書し、本学学生・教職員への貸し出しを行っている。

ライブラリーの独自企画として鉄道150周年記念「鉄道と旅・観光・まちづくり」と題した特別展示と講演会などのイベントを開催した。

### ② 地域連携機能

- ・魅力ある観光まちづくりを実践している地域・団体との包括連携協定の締結を推進し、令和4年度は次の5地域との協定締結し、連携事業を推進している。今後もさまざまな地域との連携を進めていく予定である。

#### 【包括連携協定締結地域】

千葉県香取市佐原地区、岐阜県高山市、三重県鳥羽市、愛媛県内子町、大分県由布市。尚、上記の「観光まちづくりライブラリー」内に連携地域を紹介するパネルを掲出し（一部は多目的ホールに掲出）、資料を書架に配置している。

- ・地域連携データベースの仕様検討を開始し、テストを行っている。令和5年度前期にテストを繰り返し、後期から運用開始の予定である。

③ 企画・運営機能

・地域の観光まちづくりに携わる専門家などを招聘するイベントを開催している。

【第3回観光まちづくりフォーラム】令和4年11月15日（火）

テーマ「観光まちづくりのリアル、そして未来」

ゲスト 吉見俊哉東京大学大学院教授、上綱久美子氏 デザイナー、design office kk 代表・本学部非常勤講師、多田稔子氏 一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー 代表理事、前川さおり氏 遠野市立博物館 博物館係長兼学芸員

【第3回～6回観光まちづくりカフェ】

第3回 令和4年5月25日（水）

テーマ：「横浜の都市デザインと郊外住宅地のこれから」

ゲスト：都市プランナー、横浜国立大学・横浜市立大学客員教授

元横浜市創造都市推進部長・都市デザイン室長 秋元康幸 氏

第4回 令和4年7月6日（水）

テーマ：「デジタルで進めるまちづくり・加賀市のスマートシティの取り組みについて」

ゲスト：石川県加賀市政策戦略部長兼 CMTO 横堤 恒章 氏

第5回 令和4年10月12日（水）

テーマ：「地域資源を活かした吉野町のまちづくり」

ゲスト：奈良県吉野町町長 中井 章太 氏

第6回 令和5年2月22日（水）

テーマ：「伝統行事の継承と地域社会」

～赤米行事をめぐる現状と継承への取り組み～

ゲスト：歌手、本学神道文化学部学生 相川 七瀬氏

南種子町教育委員会学芸員 石堂 和博氏

・本学部機関誌『観光まちづくり』第2号を令和4年11月に発行。

以上

## 令和5年度／事業計画(案)について

※予算が理事会を通過することを前提に

### 1. 観光まちづくり学部

- (1)導入ゼミ、基礎ゼミの充実
- (2)観光まちづくり演習Ⅰ～Ⅲのプログラム検討
- (3)専門ゼミ、卒業研究の枠組み検討
- (4)「地域を動かす」体験(仮称)講座(キャリア支援)
- (5)海外協定校の開発
- (6)学部ポータルサイトの構築
- (7)その他

### 2. 地域マネジメント研究センター

- (1)「観光まちづくりフォーラム」の開催
- (2)「観光まちづくりカフェ」の開催
- (3)機関誌「観光まちづくり」の発刊
- (4)「観光まちづくりライブラリー」主催講演会の開催
- (5)「観光まちづくりライブラリー」の充実
- (6)地域連携の取り組み(地域連携DBの充実・強化含む)
- (7)受託研究規定の作成
- (8)その他

### 3. 共同研究等

- (1)岐阜県高山市との共同研究(3年目)
- (2)栃木県栃木市・東武鉄道・東武トップツアーとの共同研究(1年目)
- (3)三重県鳥羽市との共同研究(1年目)
- (4)(一社)日本自動車連盟・神奈川県との共同プロジェクト
- (5)その他

### 4. 寄付講義

- (1)(公社)日本観光振興協会からの寄付講義
- (2)その他

以上

## 観光まちづくり学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

國學院大學観光まちづくり学部は、本学で蓄積されてきた日本と日本文化に関する学知を基盤に、「観光」を切り口としながら持続可能な地域を実現するための方法論を「観光まちづくり」という視点から開拓するとともに、その実践を担う人材を養成することを目的として令和4年4月に設置された。

学部の目的を達成するために、以下の取り組みを行った。

### 1. 入学者の確保

観光まちづくり学部ホームページを立ち上げ、学部の理念・目的、カリキュラム、専任教員等の情報を公開した。また、本学専任職員によって編成している入学アドバイザーが担当高校を訪問し、上記内容について説明を行っている。入学試験は、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通りの内容で実施し、入学定員300名に対して令和5年度は最終的に360名が入学した。

入学定員を超えた主な要因は、合格者の歩留率が想定以上に高かったことと考えている。次年度以降については、入学志願者及び入学者の確保に努めるとともに、これまでの歩留まりの状況を正確に分析したうえで、適正な定員管理の徹底に努めていきたい。

### 2. 教員組織

令和5年度の開始時点で、当初予定されていた全ての専任教員30名が着任し、教員組織は計画通り完成した。また、助手が令和4年度に3名、令和5年度に3名が着任した。

### 3. オリエンテーション

新入生に対して、4月1日に「履修ガイダンス」を開催し、「大学について」「大学の授業の仕組み」「各学科時間割の作成」「時間割の登録」「授業への出席」等について説明を行った。4月5日には学部ガイダンスを実施し、専任教員が学部の目的や教育内容に関する説明を行い、4月4日と10日には履修登録に悩みを抱える学生を対象として履修に関する個別相談も実施した。上記のほか、①大学生活ガイダンス、②大学生活トラブル防止ガイダンス、③キャンパスハラスメント防止研修、④図書館ガイダンスを実施し、希望者には①就職に役立つキャリアガイダンス、②留学・国際交流ガイダンスも併せて実施した。

また、2年生に対して、4月1日に「学部ガイダンス」を開催し、2年次以降の履修計画や履修モデルの説明を行った。さらに、前述した履修に関する個別相談は、2年次の学生も対象に実施した。



#### 4. 入学前教育

学校推薦型入試及び総合選抜型入試の入学者に対して、課題図書（39冊）を指定し、その中から任意に2冊を選ばせ、読書レポートを提出させた。この他、小論文講座やTOEICオンライン講座（いずれも有料）も用意し、一般選抜による入学者との学力差が生じないよう配慮した。

#### 5. 初年次教育と学修支援

観光まちづくり学部では、1年次前期に講義科目「まちづくりと観光」「社会学概論」「社会調査法入門」、及び演習科目「導入ゼミナール」を必修科目として配置している。「まちづくりと観光」「社会学概論」は今後4年間学修していく観光まちづくりに関する導入科目、「社会調査法入門」は社会調査手法を学ぶ科目であり、これら3つの科目により学部の学びの基礎を築く。演習科目「導入ゼミナール」は、学生を15名前後の小グループに分け、それぞれに専任教員1名を配置し、アカデミックリテラシーを修得させる。また、「導入ゼミナール」の各グループは、クラスルームの機能も有しており、担当教員がきめ細やかな学修支援を行い、後期中等教育から高等教育への接続を円滑にすることを企図している。

学部開設2年目となる令和5年度の入学者についても、同様に「導入ゼミナール」とクラスルームによる学修支援を行っている。クラスルームは2年次終了まで継続されており、担当の専任教員が昨年度と同じ学生15名前後の学修支援を行っている。

#### 6. 施設・設備の整備状況

観光まちづくり学部に関する施設・設備については、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通りに整備を行った。

#### 7. 地域マネジメント研究センター

「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通り、令和4年度に大学と地域との連携強化を図る「地域マネジメント研究センター」が設置された。地域との共同研究の推進、観光まちづくりライブラリーの運営、包括連携協定の締結、講演会・シンポジウムの開催などを推進している（別紙7）。

#### 8. 教育内容等の改善を図るための組織的な取り組み

前々項「教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）」の通り、観光まちづくり学部FD委員会、観光まちづくり演習運営委員会、観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会の設置、学生による授業評価アンケートの実施などを実施している。

以上のことから設置の趣旨・目的に照らして、令和5年5月1日時点としては当初の計画通りに実施できているものと考えている。